

第3学年4組 国語科学習指導案

1. 単元名：「状況の中で 故郷」（全10時間）

2. 単元にかかわって

（1）単元の目標

思考力、判断力、表現力等（読むこと）

○文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。

（構造と内容の把握）C－ア

○文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

（精査・解釈）C－イ

○文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。（考えの形成）C－エ

本文中には「私」が「坊ちゃん」である家庭であったことや「知事」である記述があることから、生徒は「私」が主人公然とした人物であるという前提で読み取りを行いがちである。既習の作品（（2）指導観参照）を引き合いに、客観視して読み進めることを指導したい。そして、当時の中国を取り巻く情勢を考えながら、どのような意図をもって書かれた作品かを読み取らせていきたい。

（2）指導観

中国の社会情勢とその国民の有り様を憂い小説家となった魯迅の『故郷』は、「私」の視点から故郷の変化へのもの悲しさを描いた作品で、中学校3箇年の読み取り教材の集大成でもある。場面間には伏線や暗示が効果的に散りばめられており、生徒の読み取りの視野を広げられる教材である。

第一次として、本文通読後に疑問点を話し合いながら生徒に各場面の課題を作成させ、第二次として各場面の読み取りを進めていく。その過程で、前場面を振り返るだけでなく、次場面との関連を予測するなど、作品全体の流れを意識させた授業を心がけたい。そして、単元の出口では、筆者がこの作品を通して何を伝えたかったのかという主題に迫りたい。

既習の読み取り作品との関連として、1年時の『少年の日の思い出』の主人公と同様、変化したのは故郷だけでなく「私」自身にも当てはまるということを、主人公を客観視することで読み深めさせたい。また、1年時の『大人になれなかった弟たちに……』と同様、当時の社会情勢を踏まえた読み取りをさせ、作中に込められた社会風刺的メッセージについても学習していきたい。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－（１）単元のねらいに迫るために、各領域の指導と評価規準を明確にし、「単元を貫く課題」「単位時間ごとに働かせる見方・考え方」「生徒の意識のつながり」を位置付けた単元指導計画の作成

本単元では、本文の通読後に生徒が議論する中で課題を作成し、主体的に場面ごとの課題に臨めるようにした。一単位時間のまとめについても、単なる要約とせず、作者の書きぶりに対する意見、次時以降もしくは前時以前との接点などを総合的に記述させ、文章全体の展開や構成を意識させたものにする。それにより、物語の終盤に向け、より生徒の学びが深まっていくと考える。単元の終末では、作品の主題を考える中で、既習である歴史の教科書（日清戦争～第一次世界大戦以降）を再度読み返すなどし、他教科とのつながり、現代社会との関連を感じられるような構成とした。

2－（１）必然性のある少人数での対話的な活動や、思考の広がりや深まりが期待できるような深めの発問を位置付けることで、一人一人の達成感や充実感につなげる指導

	十分に満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する（C）
評価規準	「高い塀」「四角な空」の表現から、「私」がルントウに憧れの気持ちを抱いていることを読み取っている。	第一場面とルントウの描写に着目し、「私」にとっては「故郷＝ルントウとの思い出」であることを読み取っている。	「私」にはルントウへの憧れの気持ちがあることも、幼い頃を思い出す場面にルントウに関わる記述しかないことも読み取ることができない。
手立て	「不思議な画面」の記述に着目させ、それが見たことでなく聞かされたことという点から、「私」の故郷への願望が含まれていることを捉えさせる。	ルントウと「私」を比較する表現に着目させ、「私」が知らないこと知っていることだけが、ルントウを慕っている理由でないことを捉えさせる。	思い出の詳細ではなく103ページに着目させ、「私」にとっての故郷の思い出の大部分を占めるのがルントウであることを捉えさせる。

本時で扱う場面は回想が多いが、課題解決のためには特に103ページを読み込む必要がある。本時は主人公の「私」が「ルントウ」との思い出を思い出す場面である。ルントウへの憧憬の思いが読み取ればよいが、「私」自身の記述と比較する中で、「私」の置かれた状況がルントウへの思いを強くしている点についても押さえたい。展開後半では形式段落9の「不思議な画面が繰り広げられた」という表現について意見を交流する。「場面」ではなく「画面」であること、また、私の想像が描かれている点に気付くこと、私にとって「故郷＝ルントウ」であるという課題解決への深まりにもなり、同様の表現が出てくる作品終末における「偶像崇拜」の意味や主題を考える際の一助となると考える。

読み取りを苦手とする生徒には、103ページに絞って考えることを促し、課題に迫らせたい。

2－（２）単元冒頭に単元を貫くテーマや単位時間ごとのねらい、学習活動が分かるワークシートを用いて教師と見通しを共有することで、生徒自身が自己の考えの変容や、学びの状況、認知の仕方を自覚し、自身の高まりを実感できるような“学びの見つめ”の工夫

記述を苦手とする生徒には、板書や電子教科書の色が付いた部分を比較しながら本時の学習内容をまとめられるよう支援していく。そして、本時扱う2場面と似たような言葉が出てくる場面を探し、比較させることから、伏線が存在に気付かせたい。また、「大きくなって、子どもの頃の思い出が、10歳くらいの正月のことしかないってどう思う？」などと、考える機会を設けたい。

また、場面ごとで分断せず、本時の場面で学習したことが、どのように、どの場面と関連してくるかを意識した“学びの見つめ”にしたい。本時2場面のルントウの言葉遣いが、4場面の再会時には敬語になっていること。また、「不思議な画面」が実際に見たことでないことから、5場面後半の「偶像崇拜」が「私」自身にも当てはまること。そして「高い壁」の中で過ごす「坊ちゃん」であることが、ヤンおばさんやルントウに対する「私」の冷たさにもつながっていることなどである。

5. 単元指導計画 「状況の中で 故郷」(全10時間)

時	主な学習内容	ねらい	見方・考え方
1	・単元の流れの確認、筆者紹介、『故郷』執筆前後の歴史を社会教科書で再確認、本文範読、課題候補のメモ	物語を読み返す活動を通して、久々に故郷に戻った「私」が困惑する描写の数々に気づき、課題候補を挙げることができる。【思考・判断・表現】	・疑問点に思った箇所などにチェックを入れながら教科書を読む。
2 3	・課題候補個人作成 ・課題候補全体交流		・各場面の課題候補を箇条書きする。
4 一場面	なぜ「片時も忘れることのなかった故郷」に対し「もともと」「こんなふう」と言い聞かせているのか 一場面以降の基本的な流れ 本時の課題の確認→本文通読→読み取り記述→全体交流→学びの見つめの記入と発表	天候や風景の描写に着目する活動を通して、「私」の心情を反映していることに気づき、故郷の荒廃を受け入れられない「私」の心情を読み取ることができる。【思考・判断・表現】	・「鉛色の空」等、故郷の様子と私の思いがリンクした情景描写を複数箇所見つける。 ・私が久々に帰る故郷に対しさみしさを感じている点を、情景描写に着目して読み取る。また、私は故郷の荒廃を受け入れられていない様子であることを読み取る。 ・既習の作品との関連から、本作品の「伏線」や「暗示」について考えながら読み取る。
5	二場面（6. 本時の展開参照）		
6 三場面	なぜヤンおばさんをコンパスと呼ぶのか 深めの発問 ・なぜヤンおばさんを覚えていないのか ・なぜ「私」とルントウが中心の話にヤンおばさんが登場するのか？	ヤンおばさんの呼称に着目する活動を通して、その変容に気づき、「私」が不快感を深めていることを読み取ることができる。【思考・判断・表現】	・「私」の不快感が「コンパス」という表現に表れていることを読み取る。 ・前時のルントウとの思い出と比較し、ヤンおばさんの記憶がほとんどないことを読み取る。 ・ヤンおばさんの登場シーンをカットした本文と通常の本文を見比べ、ヤンおばさんが当時の世相を端的に示す役割をもって登場している点や、ルントウの変化の伏線になっている点を理解している。
7 四場面	なぜルントウと再会したとき、二言目が口から出なかったのか 深めの発問 ・悲しむべき厚い壁とは ・なぜルントウは他人行儀か	「旦那様」に着目する活動を通して、二人の身分の差に気づき、それが「厚い壁」となっていることを読み取ることができる。【思考・判断・表現】	・「身震いしたらしかった」や「厚い壁」などの表現から、思い出の中のルントウの変化に戸惑う私の心情を読み取っている。 ・「悲しむべき厚い壁」が、身分や経済力の差であることを読み取っている。 ・数珠つなぎになって口から出なかった思い出は、見たものではなく聞かされた話であることを読み取っている。
8 五場面Ⅰ	なぜ私はホンルの言葉に胸を突かれたのか 深めの発問 ・なぜシュイションを連れていないのか ・なぜ灰の山から碗や皿が出てきたのか ・なぜ小英雄の面影がぼんやりしたのか	ホンルの発言と二場面を比較する活動を通して、かつての「私」とルントウとの共通点に気づき、身分の差が隔たりとなることに危惧する私の心情を読み取ることができる。【思考・判断・表現】	・二・四場面で学習したルントウと私と、ホンルとシュイションの様子とを比較し、同じような末路を子ども達がたどることを危惧する心情を読み取っている。 ・灰の中の碗はルントウが埋めたと考えられ、私がルントウに対し幻滅する心情を読み取っている。
9 五場面Ⅱ	なぜ私はルントウを笑ったのか 深めの発問 ・私とルントウの望むものの違い ・なぜ「希望」にどきっとするのか	「偶像崇拜」に着目する活動を通して、私とルントウが望むものの違いに気づき、ルントウを軽んじる私の心情を読み取ることができる。【思考・判断・表現】	・現状を打破することなく、神仏にすがるルントウを小馬鹿にしている私の心情を読み取っている。 ・「偶像＝アイドル」であることから、私にとっても、ルントウが偶像（作り上げ、崇拜する対象）であったことを読み取っている。
10	魯迅が『故郷』で伝えたかったことは何か（主題） ・資料の範読 ・主題について考える	資料と本文を比較する活動を通して、本文中で起きている出来事が辛亥革命であることに気づき、本文の最後の一文が読者に行動を促す内容になっていることを読み取ることができる。【思考・判断・表現】	・資料から、「纏足」を履くヤンおばさんが古い中国の象徴であることを理解している。 ・魯迅が筆を執る経緯が、自国民への失望にあることを理解している。 ・「歩く人が多くなれば～道になる」は読者である国民に対し、具体的な行動に移すことを促していることを理解している。

6. 本時のねらい

第1場面と本時の場面を比較したり、「高い塀」「神秘の宝庫」などの表現に着目したりすることを通して、「私」が自由なレントウにあこがれをもっていることに気づき、「私」にとっての「美しい故郷」とは、レントウとの思い出と同義であることを読み取ることができる。【思考・判断・表現】

7. 本時の展開（5／10）

過程	学習内容・学習活動	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1. 前時までの学習を振り返る。 ○状況：諸々から判断される物事のある時点での様子 ＝登場人物の変化を考慮して読み取る必要性 ○情景描写「ヒューヒュー」「鉛色」など → 寂寥 ・「もともとこんな～言い聞かせ」「私の覚えている故郷は～こんな風では」→自分を納得させようとしている 2. 本時の課題を確認する。 なぜ、レントウの名を聞いて、子供の頃の思い出がよみがえったのか？ 3. 読み取りを記述し、全体交流をする。 ・「突然」「電光のよう」一気に思い出す ・同じ年頃、贈り物・・・仲が良い	・私が久々に帰る故郷の様子に対し、もの寂しい心情を抱いていることを捉えている。	・単元名に出てくる「状況」の意味を確認させ、既習の場面や今後学習する場面にも着目して読み取る必然性があることをおさえる。
つなぐ	レントウ＝美しい故郷 レントウ描写3頁（第1場面故郷の様子1頁） 神秘の宝庫 鳥の取り方、五色の貝、すいかの番、跳ね魚 →私の知らないことだらけ 私 ・高い塀に囲まれ ・四角な空を眺めるだけ 自由なレントウへのあこがれ （「坊っちゃん」世間知らず）	・レントウへの好意的な思いが「神秘の宝庫」に集約されていることを捉えている。	【研究内容2-(1)】 ・「私がレントウを好意的に思っていることが分かる部分はどこか」、「知らない事を知っている人にどんな感情を抱くか」等、電子黒板を指しながら、生徒の進捗状況に合った声をかける。
見つける	4. なぜ「思い出」といわず「脳裏に不思議な画面」が浮かんだと表現されたのかを考える。（深めの発問） ・場面ではなく「画面」：TVやゲームのよう 現実感がない ・「不思議」：脳裏に繰り広げられた画面は、聞いた話であり実際には見ていない ・レントウとは十歳くらいの正月に過ごしただけ →聞いた話を膨らませている とらわれているよう 現実を受け止められない一場面と同じ 5. “学びの見つめ”を行う。 第一場面では故郷への思いはぼんやりしていたけど、レントウと聞いて思い出がよみがえったのは、レントウとの思い出が、美しい故郷の思い出そのものだったからだ。「高い塀」「四角な空」の中に住む「私」にとって、自由なレントウはあこがれだった。 でも、十歳の正月の出来事しか故郷の思い出を思い出せないのも何か悲しいものがある。不思議な画面は物語の最後にも出てくるけど、レントウのことが無くなっているのはなぜかを考えながら読み取っていきたい。	・私の状況が「高い塀」「四角な空」に表れ、レントウと対比的に描かれていることを捉えている。 ・深めの発問から、初めに頭に浮かんだ画面は、実際に見たものではないことを捉えている。	・「電光のよう」に思い出す直前「脳裏に不思議な画面が繰り広げられて」いることをおさえる。 ・「画面」はどこにあるものか、イメージを問う。 【研究内容2-(2)】 ・板書の黄色部分と電子黒板を比較させ記述するよう指導する。 ・幼少の思い出が1つしかないことをどう思うかを問い返す。
		評価規準 レントウの描写に着目したり、第一場面の故郷の描写と比較したりし、「私」にとっては「美しい故郷」の思い出の大部分が「レントウとの思い出」で占められていることを読み取っている。 【思考・判断・表現】	

1 年 1 組 国語科学習指導展開案

1. 単元名 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ（全7時間）

2. 本時のねらい

「筆者が行った実験や観察により、なぜ仮説が証明されたといえるのか」を考える活動を通して、筆者が対照実験をしたり、図表や写真などを用いたりして証明していることに気付き、意見と根拠の関係の妥当性を高めるために筆者が様々な工夫をしていることを理解することができる。【思考・判断・表現】

3. 本時の展開（4/7）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 前時の振り返りをし、本時の学習の見通しをもつ。 ・ 検証1は形式⑥～⑩で、検証2は形式⑪～⑭に書いてある。 ・ 筆者は「ジャージャー」という鳴き声は「へび」を意味する単語だと結論付けたいけれど、どうしてそういえるのかな。 2 課題提示 「仮説が証明された」と説明するために、筆者はどんな工夫をしているか考えよう。	・ 段落の大まかな展開やまとまりを理解している。	○ICTを用いて、前時の振り返を行い、いつでも見られるようにしておく。
つなぐ	3 個人追究→全体交流 ・ 検証1では、「ジャージャー」と「ピーツピ」と「何もしない」の場合を比較していた。（いっぽう） ・ 検証2では、検証1でよく分からなかった部分（問題点）について実験していて、読者が疑問に思いそうなことについて説明していた。 ・ 検証1と検証2を「きっかけ→実験・観察→結果」でまとめているから、分かりやすい。 ・ 図や表を入れて、実験結果が一目で分かるようにしている。 【深めの発問】 ○形式⑩は必要か。 ○1回の実験で証明したと言えるのか。 4 小集団交流 ・ 形式⑩で問題点があげられていて、それについて検証2をしているから、⑩は必要だ。 ・ 形式⑩がなかったら、読者はどうして検証2をしたのか分からなくなってしまうし、検証1で読者が疑問に思いそうなことを挙げているから、⑩があったほうが理解しやすい。 ・ 表を見ると、何回も実験・観察を積み重ねていることがわかる。図もあるから、文章だけでは分かりにくいことも理解しやすくなっている。 5 全体交流 ・ 論理の展開を「きっかけ→実験・観察→考え→問題点」でそろえているから、読みやすい。 ・ 検証1と検証2が、⑩によってつながっているから、筆者がどう考えて、検証を進めていったかが分かりやすい。 ・ 写真や図表があるから、文章中にない情報も読み取ることができる。 6 “学びの見つめ”を行う	・ 「まず」「いっぽう」「また」などの接続する語句に着目しながら読んでいく。 ・ 形式段落の役割について考えていく。 ・ 「考えられます」「示しました」など、文末表現に着目して読んでいく。 ・ 形式段落⑩のある・なしを比較することによって、問題点を挙げることの効果を考えていく。 ・ 図表や写真があることの効果について考えていく。 ・ 筆者が結論に説得力をもたせるためにしている説明の工夫をまとめている。	○電子黒板を用い、どの表現から、どのように考えたのかが確かめられるようにする。 【研究内容2-(1)】 考えの手立てとなるヒントをICTで見られるようにし、困ったときに参考にできるようにする。 【研究内容2-(1)】 1回目の全体交流で出なかったり、理解が浅かったりする部分について、それを補えるような「深めの発問」を行う。 小集団交流を行い、考えを深められるようにする。 【研究内容2-(2)】 学びの見つめは、「こう考えた」の視点で書き、本時の学習で分かった筆者の工夫を、他の場面でどのように生かせるかを考えるように指示する。
見つめる	・ 筆者は、図や表を使って、文章では伝わりにくい部分を補ったり、より詳しくしたりして説得力を高めていることが分かった。プレゼンする時に、9図や表を使って話したい。 ・ 筆者は、読者が疑問に思いそうなことを予想して、さらに検証2の実験をしていた。それによって説得力が増したので、私も実験する時に疑問がないか探していきたい。	・ 本時見つけた筆者の工夫の中で、他の活動に生かせるような工夫は何か考えていく。	評価規準 意見と根拠の関係を捉え、妥当性を高めるためにしている筆者の工夫と効果について理解している。【思考・判断・表現】

第3学年3組 社会科学習指導案

1. 単元名：「現代の民主政治」（全7時間）

2. 単元にかかわって

（1）単元の目標

（2）民主政治と政治参加

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

（ア）国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。

（イ）議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて，次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

（2）指導観

本単元では，国会を中心とする我が国の政治の仕組みのあらましや政党の役割，議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めたり，民主政治を推進するために，国民一人一人が政治に対する関心を高め，主権者であるという自覚を深めたりして，主体的に政治に参画することの重要性について学習する。

このうち本時では，近年の日本では選挙権を持つ有権者が投票に行かない棄権が多くなり，国政選挙における投票率の低下が問題となっていることを取り上げる。そこで，諸外国で採用されている義務投票制度を日本でも採用すべきかどうか考えることを通して，日本の選挙制度への理解を深めるとともに，主体的に政治に参画することが重要であることを，公正・公平や民主主義の視点から考えられるようにしたい。また，約3年後には，生徒は選挙権を与えられる。実際の選挙に参加していく前に，日本がかかえる選挙制度の課題と解決案を検討する活動に取り組むことで，選挙や政治に対する自分の考えをもったり，主体的に選挙に参加する態度を養ったりできるようにしたい。

そして，法律の改正に伴い選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられたことを踏まえ，選挙権をはじめとする政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として，主体的に政治に参画することについての自覚を養えるようにしたい。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1ー(1) 一単位時間の役割を明らかにし、単位時間ごとに働かせる見方・考え方を明確にした単元指導計画の作成

本単元では、働かせる見方・考え方を、中学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえて以下のように考えた。

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して考察、構想し、よりよい社会の構築に向けて、選択・判断したり表現したりすること。

そこで、第1時では誰を市長に選ぶか考える活動を位置付ける。これまでの学習や経験から、候補者の政策について判断していく中で、政治に参加する意味や重要性について考えるようにする。そして、単元を貫く課題「民主政治では、なぜ政治に参加することが重要なのか」を設定し、本単元を学ぶ必然性をもたせていく。

第2時では、多数決の原理を通して「民主主義」について考えを深める活動を位置付ける。多数決の原理は、生徒自身も普段から使っている概念である。しかし、「効率」の視点だけではなく、「公平」や「合意」の視点から考えを深めることで、民主主義の意味や重要性について考えるようにする。

第3～5時では、日本における選挙制度や政党の役割、マスメディアと世論の関係性について考える活動を位置付ける。日本の選挙制度や政党について理解を深めるとともに、選挙の際にはマスメディアが発信する情報をもとに判断していることに気付けるようにする。国民の思いや願いを伝えるには、受け身ではなく、主体的に参加することが大切であることを考えられるようにする。

第6時（本時）では、日本における投票率の低下を取り上げ、義務投票制度を採用すべきか考えることを通して、選挙と民主主義の意義や目的について考えを深める活動を位置付ける。これまで獲得した見方・考え方を活用しながら、選挙制度の課題の解決方法を考えられるようにする。そして、義務ではなく、国民が主体的に政治参加することが重要であることを考えられるようにする。

第7時では、これまでの獲得した見方・考え方をもとに、3年後の選挙権を得た自分はどう政治に参加するか考える活動を位置付ける。これまでの見方・考え方を発揮しながら、主体的に参加する方法について考えられるようにする。

2－（１）個別最適な学びを実現し、仲間と様々な意見を共有することで自己の考えを広めたり深めたりするための手立てを明確にした指導

本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
評価規準	選挙の目的や意義を考え、国民主権の視点からよりよい民主政治の在り方と自分の考えをまとめている。	選挙の目的や意義を考え、国民主権の視点から民主政治の在り方を考えている。	義務投票制について、自分の立場を明らかにすることができなかつたり、その理由を考えたりできない。
手立て	よりよい民主政治を実現するために、国民主権をより反映した選挙制度や主権者の在り方について考える視点を与える。	自分の立場や理由を、「選挙の目的や意義」の視点から再考させることで、自分の考えを深められるようにする。	義務投票制度のメリット・デメリットをワークシートに整理したり、小集団で話し合ったりすることで、自分の立場とその理由を明らかにできるようにする。

資料の工夫

①数字やグラフなどを活用した視覚化

導入や深めの場面で、投票率を数字やグラフで視覚化することで、日本の選挙制度における課題やスウェーデンにおける政治参画への意識を把握しやすくし、追究していく視点を明らかにする。

②個に応じたワークシートの使用

選挙の目的や課題、義務投票制度の採用によるメリット・デメリットをまとめられるワークシートを追究資料とともに配付する。生徒が必要に応じて使用することで、自分の立場や考えをまとめられるようにする。

ICTの活用

ロイロノートを活用した立場の共有

義務投票制について自分の立場を共有することで、相手の立場が自分とどう違うのか知り、自分の考えと比較できるようにする。

小集団交流

自分の考えを確かなものにする小集団交流

小集団で交流することで、選挙の目的や意義、義務投票制の採用によるメリット・デメリットを全ての生徒が整理できるようにする。また、少人数で交流することで、自分の考えを伝えやすくしたり仲間の考えをじっくり聞いたりできるようにする。この交流を通して、自分の考えがもてない生徒や自信がない生徒が主体的に学べるようにする。

2－（２）学習内容だけではなく、働かせた見方・考え方を確認し、自己の変容や成長を実感できるようにするための振り返り“学びの見つめ”の工夫

本時の学びの見つめでは、「こう考えた」という、授業での思考の過程を振り返り、今後の深い学びにつなげていきたい。そこで本時の学びの見つめでは、思考の変化や深まりを自覚するために行う。そのために、追究前の自分の立場・考えと終末の自分の立場・考えを比較して思考の変化や過程を振り返るようにする。その際には、立場が変化した理由や考えが深まった理由を視点として記述させていく。

記述が難しい生徒には、個々に自分の立場や考えの変化・深まりについて言語化させていく。それとともに、自分の立場や考えを深めた理由は何か振り返らせることで、学びの見つめが行えるようにしていく。

5. 単元指導計画「現代の民主政治」（全7時間）

時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	だれを市長に選ぶ？	S市の市長選挙を、工場の移転に伴う土地の使い道を争点として考える活動を通して、政治は人々の願いを実現し、よりよい社会をつくるためのものであることに気付き、単元の学習の見通しをもって主体的に追究しようとすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	・人口構成、市民アンケート結果をもとに、市長にふさわしい候補者を選んでいる。
2	政治と民主主義	賛成多数によって決定した内容について決め方が妥当であったか考えることを通して、賛同者の数で判断するのではなく、少数意見も尊重し、より多くの人が合意できる内容を目指すことが民主主義であることを考えることができる。 【思考・判断・表現】	・公正公平の視点から、民主主義について考えている。
3	選挙の意義と仕組み	現在の日本で行われている選挙の基本原則と選挙制度について考えることを通して、選挙制度と民主主義の考え方につながりがあることに気付き、選挙が果たしている役割や課題を理解することができる。 【知識・技能】	・日本の選挙制度、民主主義の視点から、選挙の重要性について考えている。
4	政党の役割、マスメディアと世論	政党の役割とマスメディアの政治への影響について考えることを通して、国民と政党との関係には民主主義の考え方が関わっていることやマスメディアは世論の形成に大きく関わっていることに気付き、政党と世論の関係について考えることができる。 【思考・判断・表現】	・国民と政党との関係、民主主義の視点から、政党が果たしている役割を考えている。 ・公正と公平、民主主義の視点から、マスメディアと世論の関係について考えている。
5	選挙の課題	選挙の課題について考えることを通して、一票の格差などの課題を抱えていることに気付き、国民主権をより反映するための努力がされていることを理解することができる。 【知識・技能】	・選挙の4原則、公正公平、国民主権の視点から、選挙の課題について考えている。
6 (本時)	真の民主政治とは	義務投票制を日本も導入すべきかどうか議論することを通して、国民主権を実現するために選挙が重要であることに気付き、一人一人が主体的に選挙に参加する意思をもつことがよりよい民主政治につながると考えることができる。 【思考・判断・表現】	・民主主義、国民主権、選挙の目的と意義、公正公平の視点から、日本の選挙制度の課題を分析し、よりよい民主政治について考えている。
7	私たちの政治参加	実際の選挙の流れと工夫について理解することを通して、選挙の機会が保障されているのは、民主主義の考え方をもとに政治を行っているからだ、資料や既習内容を活用して説明し、主体的に単元のまとめを行うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	・民主主義の重要性を理解し、主体的に政治に参加していこうと、これまでの視点を使いながら学習をまとめている。

6. 本時のねらい

義務投票制を日本も導入すべきかどうか議論することを通して、国民主権を実現するために選挙が重要であることに気づき、一人一人が主体的に選挙に参加する意思をもつことがよりよい民主政治につながると考えることができる。

【思考・判断・表現】

7. 本時の展開（6／7）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 日本と世界の投票率について知る。 - 日本の投票率は、低くなってきている。 - 世界には、投票率が80%を超える国があるんだ。 2 義務投票制について知り、課題化する。 - 日本も義務投票制を採用すると、投票率が高くなるのかな。 日本も義務投票制を採用すべきだろうか。 3 自分の立場と課題追究の視点を確認する。 - 投票率を上げるために義務投票制を採用するとういと思う。 - 投票を義務化するの、よくないと思う。 【追究の視点】 選挙の目的は何か。 日本の投票率の低さの理由は何か。 義務投票制のメリット・デメリットは何か。	見・考 日本と世界の選挙制度の違いについて考えている。 見・考 日本の選挙制度を踏まえ、制度を導入すべきかどうか自分の立場を考えている。	○事前アンケート ○日本の投票率の推移のグラフ ○諸外国の投票率 【研究内容 2-(1)】 日本と世界の投票率を数字に着目して比較することで、日本の選挙制度の課題を明らかにし、課題意識をもたせる。 ○国民主権 ○投票の棄権理由 ○日本国憲法における参政権の規定
つなぐ	4 資料から課題を追究する。(個人 → 小集団) 【選挙の目的】 - 政治の在り方を国民が決定するため(国民主権) - 国民の思いを政治に反映させるため 【投票率が低下した理由】 - 政治や選挙への関心が低い - ふさわしい候補者や政党がいなかったため - 自分が投票しなくても変わらないから 【メリット】 - 投票率が上昇し、選挙の正当性が高まる。 - 投票をきっかけに政治について調べる人が増える。 【デメリット】 - 政治や政策に関心が低いと、知名度に基づいて投票してしまう。 - 投票は義務でなく、権利である。	見・考 選挙の意義や投票率の低さの原因などに関連付けながら、制度導入の良さや課題を分析している。 見・考 制度の導入が与える影響をもとに、制度を導入すべきかどうかについて自分の立場について考えている。 見・考 制度の導入が与える影響をもとに、日本の選挙制度がどうあるべきか考えている。	【研究内容 2-(1)】 - メリットやデメリットが整理できるワークシートを配付し、必要に応じて使用できるようにする。 - 小集団で選挙の目的や義務投票制のメリット・デメリットなどを話し合わせることで、全ての生徒が基となる考えをもたせる。 【研究内容 2-(2)】 - 授業の最初に考えた自分の立場とその理由を振り返り、交流を通してどのような変化や深まりがあったのか確認させる。 - なぜ投票率を高める必要があるのかを振り返らせる。
見つめる	5 課題に対する自分の立場を交流する。(全体) - このままでは一部の人の願いしか反映されないの、義務投票制を採用して、全員が参加する仕組みにしよう。 - 義務にすれば、適当に投票してしまう人が出てくるので、義務投票制を採用すべきでない。 6 よりよい民主政治を実現するために大切なことについて考える。 - 義務投票制によって、政治に関心をもつ人が増えることは良い。 - 誰でもいいから投票することは、国民主権の実現とは言えない。 - 投票率を高くすることが目的ではなく、国民一人一人が政治に関心を持ち、自らの意思で投票する人が増えることが大切である。 7 “学びの見つめ”を行う。 最初は、義務投票制が投票率を高める良い方法であると思った。しかし、投票を強制にすれば知名度の高さで投票する人が出てくとも分かった。そこで、義務投票制ではなく、学校で選挙の大切さを学べるようにしたほうがよいと考えた。投票率を高める視点だけでなく、国民一人一人が政治に主体的に参加するための視点で選挙制度の在り方を考えることが非常に重要であると分かった。	深 投票率を高める目的について、選挙の意義と関連付けて再考する。 見・考 選挙の意義や目的を踏まえ、よりよい民主政治を実現するために、選挙制度や主権者はどうあるべきか自分の立場をまとめていく。	○スウェーデンの投票率 ○スウェーデンの投票率が高い理由 評価規準 選挙の目的や意義を考え、国民主権の視点からよりよい民主政治について考えている。 【思考・判断・表現】

3年1組 社会科学習指導展開案

1. 単元名 現代の民主政治（全7時間）

2. 本時のねらい

日本の選挙制度にはどのような課題があるか考える活動を通して、棄権が増加していることや一票の格差の問題があることに気づき、民主政治を実現させるために一人一人が主体的に選挙に参加することが大切であると考えることができる。【知識・技能】

3. 本時の展開（5／7）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 選挙制度の確認をする。 ・大選挙区制や小選挙区制など様々な制度がある。 ・それぞれ良い点や課題点があり、使い分けられている。 2 導入資料を提示から課題を設定する。 ・衆議院選挙，議院選挙共に投票率が下がっている。 ・参議院選挙は50%を下回っている年がある。 現代の日本の選挙制度にはどのような課題があるのだろうか。	見・考投票率の推移に着目してグラフを読み取っている。	○「国政選挙の投票率」 【研究内容1-(1)】 ・折れ線グラフや棒グラフの資料を読み取る活動を位置づけ、数字の変化に着目させて「推移」「変化」「比較」などの見方・考え方を定着させる。
	3 課題追究の視点を確認する。 ・選挙区の違いに関わりがあるのではないか。 ・投票率が低いことでどんな影響が出るだろうか。 4 資料をもとに追究し、仲間と交流する。(小集団→全体) 【棄権の増加】 ・特に若い世代の投票率が低い。 ・高齢者の意見が取り入れられ、若者の意見が反映されにくい。 ・棄権が多くなると、一部の人の意見で決定されることになる。 【一票の格差】 ・議員一人あたりの有権者数が多い選挙区と少ない選挙区で差が大きい。 ・一人が当選するための得票が異なり、一票の価値の差が大きくなり、平等ではない。	見・考世代ごとの投票率を比較することで、若い世代の選挙への関心が低いことに気付く。	○「年齢別投票率」 ○「一票の格差」 【研究内容2-(1)】 ・部分的に数字の大きさを見るだけでなく、世代ごとに比較するとよいことを助言し、資料を読み取る力が弱い生徒を支援する。 ・地域ごとの有権者数の差を、地域の特色と関連付けて考えてみるように助言し、既習事項を生かして考えさせる。
つなぐ	5 現代の選挙制度の問題がどんな影響を与えているか考える。 ・政治に関心をもつ人が減少し、選挙の棄権が増加することで、国民が政治に参加できなくなってしまう。 ・年齢ごとに投票率の差が大きくなることで、一部の人の意見しか反映されない偏った政治になってしまう。 ・一票の格差があることで、選挙の基本原則である秘密選挙や日本国憲法で守られるはずの平等権が侵害されることになる。	見・考選挙区ごとに有権者の数に大きな差があることに気づき、それが平等権の侵害につながっていると考えている。	○日本国憲法の三つの基本原理 ○基本的人権
	6 自分たちが選挙権を得たときに大切にしたいことを考える。 ・3年後、自分たちも選挙に参加することになるが、国民権を達成するためには、積極的に投票するべきだと考えた。 ・政治に関わってわからないことは多いけど、積極的に情報を集めたり、主体的に行動したりすることが大事だと思った。 7 “学びの見つめ”を行う。 現代の日本の選挙制度には、棄権の増加や一票の格差などの課題があることがわかった。この問題を解決しないと、一部の人の意見で政治が変わってしまったり、不平等な選挙となり、平等権が守られなくなったりしてしまう。私たちも18歳になったら選挙に参加することになるが、これらの問題をに目を向けて、主体的に政治に参加することが民主政治を実現するために大切だと思った。	深選挙制度の課題点、実際の社会でどのような影響を与えるか具体的に考えている。 見・考自分たちが、選挙権を得た時のことを想像して、実生活に結び付けて考えている。	【研究内容2-(2)】 ・選挙の課題として取り上げた内容が社会にどのような影響を与えるか具体的に考えさせる。 ・「選挙に参加する」という社会的事実を3年後の自分をイメージしながら、自分で意思決定させる。 評価規準 「棄権の増加」「一票の格差」など現代の選挙に課題があることを理解し、主体的な選挙参加が大切であると考えている。【知識・技能】
見つめる			

2年2組 社会科学習指導展開案

1. 単元名 欧米の進出と日本の開国（全5時間）

2. 本時のねらい

江戸幕府が開国した理由を考える活動を通して、条約を締結することで、日本の独立を保とうとしたことに気づき、外国の脅威やアジアの情勢に関連付けて考えることができる。【思考・判断・表現】

3. 本時の展開（2／5）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 日米和親条約・日米修好通商条約の内容を確認する。 - 日本の鎖国が終わってしまった。 - 下田、函館など新たな港が開かれた。 - 日本はアメリカと貿易を始めた。 2 導入資料から課題化する。 - 幕府は拒否することもできたのに調印したのはなぜか。 - 条約締結にメリットはあるのだろうか。 これまで鎖国の体制を守ってきたのに、幕府はなぜ開国してしまったのだろうか。	見・考ペリーが来航し、日米和親条約・日米修好通商条約を結んだことにより、日本が開国したことについて考えている。	○前時までの学習内容を生かして考えるように助言する。 ○日米和親条約 ○日米修好通商条約 【研究内容2-(1)】 2つの条約締結資料より、日本が開国したことに気づき、課題意識をもてるようにする
つなぐ	3 課題追究の視点を確認する。 - 開国することでどのような影響があるのか。 - 条約を拒否することができたのだろうか。 4 資料をもとに追究する。 【外国の脅威】 - ペリーがやってきたことに、日本は恐れていた。 - 日本は外国と戦ったら負けるかもしれない。 【アジアの情勢】 - 中国はアヘン戦争で負けている。 - 中国やインドのように日本も欧米に支配されるかもしれない。 日本の独立を守るために開国しなければならない	見・考開国がもたらす日本の影響について考えている。 見・考欧米によるアジアの侵略、植民地化について前時の学習をもとに考えている。	○19世紀頃のユーラシア ○ペリーの上陸 【研究内容2-(1)】 ロイロノートの思考ツールを活用し、開国の影響の予想を原因・理由を整理して考えられるようにする。 小集団ですべての生徒が軸となる意見をもつことができるようにする。また、自分とは異なる仲間の意見を通して、社会的現象について深く考えられるようにする。
見つめる	5 課題に対する自分の意見を交流する。 - アジアでは植民地支配がされている国もある。欧米の国々との交渉には逆らわずに従い、関係を築いていくべきである。 - 日本は外国より技術が劣っているのに技術が劣っているのに戦いになると負けるかもしれない。 6 横浜の様子から開国による影響について考える。 - 街がにぎやかになっている。 - 江戸時代になかったものが描かれている。 7 “学びの見つめ”を行う。 江戸幕府が開かれて間もないころから幕府は鎖国の体制をつくり、守ってきたがペリーの来航によりあっという間に開国してしまった。ペリーの黒船は日本より技術力が高く、とても怖かったと思う。また、中国はイギリスとの戦争に負け、支配されている現状を考えると、日本の軍勢力では欧米に対抗できないだろうと思った。 だから、日本の独立を保つために、条約を締結し、開国するしかなかったのだろう。	見・考日本と欧米の技術を比較して、欧米の技術力の高さについて考えている。 深開国後の横浜の様子から、開国により街・産業の発展がもたらされたことを考えている。 見・考欧米の脅威、アジアの情勢であったことに気づき、日本の独立を保つために条約を締結し、開国したことについて考えることができる。	○開国後の横浜 ○開国・通商をめぐる大名の意見 【研究内容2-(2)】 欧米の脅威・アジアの情勢を考えさせ、日本の独立を保つために条約を締結し、開国との関係性について具体的に考えさせる。 評価規準 欧米の脅威、アジアの情勢について関連付けて、日本の独立を保つために条約を締結したことを考えることができる。 【思考・判断・表現】

第1学年6組 数学科学習指導案

1. 単元名：「量の変化と比例, 反比例」(全17時間)

2. 単元にかかわって

(1) 単元の目標

比例, 反比例について, 数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 関数関係の意味を理解すること。

(イ) 比例, 反比例について理解すること。

(ウ) 座標の意味を理解すること。

(エ) 比例, 反比例を表, 式, グラフなどに表すこと。

イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。

(ア) 比例, 反比例として捉えられる二つの数量について, 表, 式, グラフなどを用いて調べ, それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。

(イ) 比例, 反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

(2) 指導観

小学校算数科では, 第4学年から第6学年にかけて, 変化の様子を表や式, 折れ線グラフを用いて表したり, 変化の特徴を読み取ったり, 伴って変わる二つの数量を見出して, それらの関係に着目し, 変化や対応の特徴を考察したりしてきている。また, 比例の関係を理解し, これを用いて問題を解決してきている。なお, 比例の理解を促すため, 反比例についても学習してきている。

中学校数学科において第1学年では, これらの学習の上に立って, 事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出してその変化や対応の仕方に着目し, 関数関係の意味を理解できるようにする。

比例, 反比例の学習は, 日常生活において数量間の関係を探究する基礎となるものである。これらの学習においては, 一般的, 形式的に流れることなく, 具体的に事象を考察することを通して, 関数関係を見出し考察し表現する力を養う。また, 数の拡張や関数の概念を基にして, 小学校算数科で学習した比例, 反比例を関数として捉え直すことも必要である。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－(1) 単元および単位時間に身に付けさせる資質・能力や、一単位時間の役割を明らかにし、 見方・考え方を働かせている生徒の姿を明確にした単元指導計画の作成

数学を学ぶ目的は、これまでに学習したことや経験したことを活用し、新たな問題をよりよい方法で解決できるようにしていくことにあると考える。そこで、今、何が問題であるのかを把握し、その問題を解決するためにどんな方法が有効かを考え、実際に試し、解決できなければ別の方法を考えたり、解決できたとしてもよりよい方法はないかを考えたりしていくことができるようにしていきたい。

【数学的な見方・考え方とは】(学習指導要領解説数学編P. 21より)

数学的な見方	：事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること。(視点)
数学的な考え方	：目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えること。(方向性)

数学は毎年「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」の4領域に分けて学習を行う。本単元は、「C 関数」の領域の学習であり、中学1年生においては、小学校の第4学年から第6学年の3年間での、比例、反比例の学習と、今後の学習に繋げていく必要がある。中学1年生では、比例、反比例を学習し、中学2、3年生では、1次関数や関数 $y = ax^2$ について学習する。そのため、関数関係について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を高める必要がある。また、本単元の学習内容とねらい(身に付けさせる資質・能力、働かせたい数学的な見方)を明らかにした単元指導計画を作成した。こうすることで、1単位時間の役割をはっきりさせることができ、知識・技能を身に付けさせる時間と、見方・考え方を豊かにする時間に、明確な区別をつけることができる。

本時は、見方・考え方を豊かにする時間である。表、式、グラフについては別々に作成することや読み取ることはできているが、3つを関連付けて考え、利用して問題を解決することについては本時が初めてである。問題に応じて使い分けることで、式で計算をしなくても表やグラフから値を読み取れたり、グラフや表では値を求めることが難しくても、式を使えば求めることができたりすることに気付かせたい。このように、1単位時間の生徒の姿を具体的に描き、単元指導計画を作成した。

2－(1) 個別最適な学びを実現するために、ICTを活用した学びを行ったり、個人追求後の小集団交流を行ったりすることで、一人一人が「できた」「分かった」と思える指導の工夫

レディネステストの結果から、小学校で習ったことを利用し、グラフから値を読み取ったり、表から変化の様子を考え穴埋めをしたりすることはできている。しかし、式の形で表すことに弱さが見られたため、表、式、グラフを関連付けて考察していく必要がある。

個別最適な学びの実現に向けて、机間指導計画を作成した。机間指導計画は、これまでの学習状況やレディネステストの結果から、個別の声かけが必要な生徒を抽出し、机間指導の際に重点的に指導できるようなものを作成した。個人追究の際、まずはCの生徒に対して、ロイロノートの資料箱を見るように声をかける。

個人追究の際に、根拠を明確にして問題を解決するように声をかけ、AやBの生徒がCの生徒にも分かるような説明をできるようにしたい。そのため、問題を解決した際、「なぜその手段を選んだのか」と問いかけることで、表、式、グラフのそれぞれのよさについて具体的に考えさせるようにしていく。

本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
評価規準	日常生活の具体的な事象について、関数関係にある2つの数量を見出し、問題を解決する活動を通して、時間と距離の関係が比例であることに気づき、表、式、グラフを関連付けて考察し、それぞれのよさを実感しながら、問題を解決することができる。	日常生活の具体的な事象について、関数関係にある2つの数量を見出し、問題を解決する活動を通して、時間と距離の関係が比例であることに気づき、表、式、グラフを関連付けて考察することができる。	関数関係にある2つの数量を見出すことはできるが、表、式、グラフを作成することができない。
手立て	問題を解決できた際に、「なぜその手段を選んだのか」と問いかけ、自分の言葉で説明することができるようにする。	1つの手段で問題を解決した際に、「ほかの考え方ではどうか。」と声かけをし、2つ目、3つ目の考えをもてるようにする。	ロイロノートの資料箱を活用し、表や式、グラフについてのヒントカードを資料箱に入れておき、手が止まっている生徒に資料箱を見るように声をかける。

2-(2) 生徒が見方・考え方を働かせて学習した自己の変容や成長を実感できるようにするため、視点を明らかにした振り返りと、評価問題を活用した「学びの見つめ」の実施

毎時間、授業の終末10分間を『個の調整の時間』として位置付けている。その時間では、学習の内容を振り返る活動（評価問題・学びの見つめ）を行い、残った時間は、教科書の問題や数学のワーク、iプリを生徒が個人で選んで取り組んでいる。

学びの見つめの場面では、数学的な見方・考え方に関する事柄や既習内容とのつながりを振り返らせ、何を学んだかを言語化させている。学習内容を振り返るときには、以下に示す7つの観点をポイントにして学びの見つめを行うよう、生徒に示している。

- ①本時の授業内容について、解き方をまとめる。
- ②本時の学習内容について、ポイントとなる見方や考え方をまとめる。
- ③授業で示された複数の解法の中からベストだと思うものを選び、その理由をまとめる。
- ④新出の知識や概念の有用性についてまとめる。
- ⑤本時の授業内容をより一般化した内容について考察する。
- ⑥授業で示された解法以外の解法を考える。
- ⑦本時の授業内容と前時以前の授業内容をつなげて（比べて）考察する。

7観点から1つを選び、端的に記述することで、論理的な考え方や簡潔・明瞭・的確に説明する力を身に付けてほしいと考えている。本時に学習した一連の問題解決の過程を振り返ることで、数学を活用して問題解決する方法を生徒が理解できるようにする。どのような場面で何をどのように捉えて考察したり、どのように表現・処理したりすれば問題をよりよく解決できるのかといった方法に着目し、うまくいったことやうまくいかなかったことを場面と関連付けて整理して、振り返るよう指導していく。

5. 単元指導計画「量の変化と比例, 反比例」(全 17 時間)

時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	ともなって変わる2つの量	ともなって変わるいろいろな数量を2つの数量に着目して調べる活動を通して、一方の値を決めれば他方の値がただ一つに決まる関係を関数であるということを知り、関数関係の意味を理解することができる。【知識・技能】	・ともなって変わる2つの数量に着目し、一方の値を決めれば他方の値がただ一つに決まる関係の数量を見つけている。 〔用語〕 y は x の関数である
2	2つの数量の関係の調べ方	ともなって変わる2つの数量 x と y の関係を調べる活動を通して、 x と y の関係を調べるには表、式、グラフなどが使われていることに気付き、変数や変域の必要性や意味を理解することができる。【知識・技能】	・ともなって変わる2つの数量について、表、式、グラフなどを使って調べ、変化や対応のようすを捉えている。 〔用語〕変数、変域
3	比例の意味	変域に負の数が含まれる場合の具体的な事象の中から2つの数量の関係を調べる活動を通して、負の数の変域の場合でも比例の特徴が成り立つことに気付き、変域に負の数が含まれる場合の比例の定義とその特徴を理解することができる。【知識・技能】	・変域を負の数まで拡張したとき、変域が正の数の場合の比例と同じ性質をもつかを調べている。 〔用語〕定数、 y は x に比例する、比例定数
4	比例と比例定数	比例定数が負の数の場合の具体的な事象での2つの数量を調べる活動を通して、比例定数が負の数の場合でも比例の特徴が成り立つことに気付き、比例の性質を理解することができる。【知識・技能】	・比例定数を負の数まで拡張したとき、比例定数が正の数の場合の比例と同じ性質をもつかを調べている。
5	座標	変域を負の数の範囲まで広げて座標をとる活動を通して、座標平面上のどんな点も座標によって表すことができることに気付き、グラフをかくための座標の必要性を理解することができる。【知識・技能】	・変域が0以上の場合の比例のグラフのかき方を復習し、変域が負の数の場合にはどうすればよいかを調べている。 〔用語〕 x 軸、 y 軸、座標軸、原点、座標平面、座標、 x 座標、 y 座標
6	比例のグラフ	比例定数が正の数のときの比例のグラフをかく活動を通して、 x が負の数の場合でも細かく点をとると直線になることに気付き、原点を通り右上がりの直線になるという特徴をおさえて比例のグラフをかくことができる。【知識・技能】	・ x が負の数の場合でも細かく点をとると直線になることに気付いている。
7	比例のグラフの特徴	比例定数が負の数のときの比例のグラフをかく活動を通して、比例のグラフの特徴に気付き、比例のグラフをかくことができる。【知識・技能】	・前時の比例定数が正の数の場合のグラフのかき方を利用して、グラフをかいている。
8	比例のグラフのかき方	比例のグラフをその特徴を利用してかく活動を通して、比例のグラフは原点とそれ以外の1点を決めて直線で結べばよいことに気付き、比例のグラフを簡単にかくことができる。【思考・判断・表現】	・比例のグラフの特徴から、点をたくさんとらずにグラフをかくことはできないかと考えている。

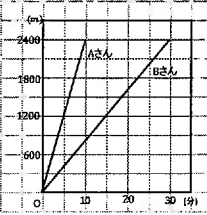
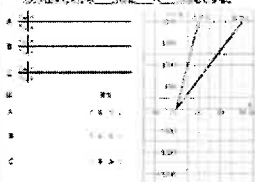
9	比例の式の求め方	与えられた条件や比例のグラフから式を求める活動を通して、 $y = ax$ に値を代入すればよいことに気づき、 x と y の関係を表す式を求めることができる。【知識・技能】	・与えられた条件から、比例であると判断し、比例の式に代入すればよいと考えている。
10	反比例の意味	変域に負の数が含まれる場合の具体的な事象の中から2つの数量の関係を調べる活動を通して、負の数の変域の場合でも反比例の特徴が成り立つことに気づき、変域に負の数が含まれる場合の反比例の定義とその特徴を理解することができる。【知識・技能】	・変域を負の数まで拡張したとき、変域が正の数の場合の反比例と同じ性質をもつかを調べている。 〔用語〕 y は x に反比例する、比例定数
11	反比例のグラフ	比例定数が正の数のときの反比例のグラフをかく活動を通して、 x が負の数の場合でも細かく点をとることで、1組の曲線になることに気づき、反比例のグラフをかくことができる。【知識・技能】	・反比例の表の対応する x 、 y の値の組を座標とする点を、座標平面上にとると、点が曲線になることに気付いている。 〔用語〕双曲線
12	反比例のグラフの特徴	比例定数が負の数のときの反比例のグラフをかき、前時のグラフと比較する活動を通して、反比例のグラフの特徴に気づき、反比例のグラフをかくことができる。【思考・判断・表現】	・前時の比例定数が正の数の場合のグラフのかき方を利用して、グラフをかいている。
13	反比例の式の求め方	与えられた条件や双曲線のグラフから式を求める活動を通して、 $y = a/x$ に値を代入すればよいことに気づき、 x と y の関係を表す式を求めることができる。【知識・技能】	・与えられた条件から、反比例であると判断し、反比例の式に代入すればよいと考えている。
14	練習		
15 (本時)	身のまわりの問題を関数を使って解決しよう	日常生活の具体的な事象について、関数関係にある2つの数量を見出し、問題を解決する活動を通して、時間と距離の関係が比例であることに気づき、表、式、グラフを関連付けて考察することができる。【思考・判断・表現】	・式の形から、時間と距離の関係が比例であると気付いている。 ・問題に応じて、表、式、グラフを使い分けて考察している。
16	図形の面積の変わり方を調べよう	図形の中に現れる関数を考察する活動を通して、事象の中にあるともなって変わる2つの数量を見出し、表、式、グラフを用いて調べることで比例の特徴に気づき、比例の関係であることを判断することができる。【思考・判断・表現】	・図形の辺上を点が動くときに、ともなって変わる量の変化や対応のようすを、表、式、グラフを通して調べればよいと考えている。
17	4章のふりかえり		

6. 本時のねらい

日常生活の具体的な事象について、関数関係にある2つの数量を見出し、問題を解決する活動を通して、時間と距離の関係が比例であることに気付き、表、式、グラフを関連付けて考察することができる。

【思考・判断・表現】

7. 本時の展開 (15/17)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 問題を把握する 学校から東へ2400m離れた東公園まで、同じ道をAさんは自転車でBさんは歩いて行きました。また、Aさんが学校を出発したと同時に、Cさんは分速180mの速さのランニングで出発し、学校から西へ1800m離れた西公園に向かいました。右のグラフは、AさんとBさんの進行のようすを示しています。  3人の進行のようすについて調べられることは何ですか。 ・3人のうちで、目的地に一番早く着く人は誰か。 ・何分後にどれだけ離れているか。 身のまわりにある問題を、表、グラフ、式を利用して解決しよう 2 個人追究 教科書P.156, 157 (1)～(7)の問題に取り組む。  (5) AさんとBさんは800m, AさんとCさんは2100m, BさんとCさんは1300m離れている。 (6) 10分後 (7) AさんとCさんは、3360m, BさんとCさんは、2080m離れている。	見 グラフからA, Bの進んだ道のりと時間が分かることに気付く。 見 時間を決めると道のりもただ1つに決まることに気付き、関数であると分かる。 考 既習内容を使って、表や式、グラフをかく方法を考えている。 見 式の形から、比例の関係であると気付く。 見・考 グラフから1200m地点のAとBの差が2マス分(10分)であることに気付く。式に$y=1200$を代入してxの値の差が10であることに気付く。 見・考 グラフだと8分の値が読み取れないことに気付く、式を使えばよいことに気付く。 深 表、式、グラフを見て、問題の答えがどこに表れ、どのように求めればよいかを考えている。	【研究内容2-(1)】 ICTを利用して、実際に動いている動画を見ることで、日常生活の具体的な事象とグラフとの関連をイメージしやすくさせる。 ○何を調べたいかを生徒に問いかけることで、課題意識をもたせる。 ○共通の問題に取り組ませるために、教科書の問題に取り組むことを伝える。 【研究内容2-(1)】 手が止まってしまった場合の解決手段として、ロイロノート資料箱を見る、周りの仲間へ聞く、教師に聞くなどを、自分で選択して取り組ませる。 【研究内容2-(1)】 机間指導計画に基づき、Cの生徒には、ヒントカードや答えを見て、表、式、グラフを書くよう声をかける。 ○(7)まで終わった生徒は、『学びにプラス』に取り組むことを伝える。 【研究内容2-(1)】 表、式、グラフのどれを利用して問題を解いたのかの根拠を明確にさせる。 【研究内容2-(2)】 表、式、グラフのどれを使えばよいのかを考えさせることで、それぞれのよさについて気付かせ、自分の言葉でまとめさせる。 評価規準 表、式、グラフを関連付けて考察することができる。 【思考・判断・表現】
つなぐ	3 (5)(6)の問題を交流する。(全体交流) ・(5)はグラフを見ると、AさんとCさんの距離は分かるが、Bさんの距離が分からないので、表や式を使って求めた。 ・(6)は、グラフを見ると、2マス分の差があるため、10分後と分かる。 ・(6)は、式に$y=1200$を代入すると、Aさんは$x=5$、Bさんは$x=15$となるので、差は10分になる。		
見つめる	4 まとめをする。 表、式、グラフを関連付けることで、速さの問題を解決することができる。 5 『学びにプラス』を交流する。(全体交流) 6 評価問題に取り組む。 評 学校を出発してから、7分後に、AさんとCさん、BさんとCさんはそれぞれ何m離れていましたか。 7 “学びの見つめ”を行う。 ・グラフはぱっと見て値を読み取れるので、3人の進行のようすがすぐ分かった。しかし、格子点ではないところは読み取れず、式を使って求めた。 ・式はどんな値でも対応できるので、xやyに値を代入すれば求められる。しかし、計算が多いので、表やグラフを見ると簡単に解決できる問題もあった。 ・表を見ると、値が表にある場合に、すぐに答えを求めることができた。しかし、表にない場合は、式を使って求めた。		

1 年 5 組 数学科学習指導展開案

1. 単元名 量の変化と比例, 反比例 (全 19 時間)

2. 本時のねらい

変化する三角形の面積について考察することを通して, 関数関係にある 2 つの数量を見出し, その関係を表, 式, グラフを用いて様々な問題を解決することができる。

【思考・判断・表現】

3. 本時の展開 (17/19)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助																												
つかむ	1 問題を把握する。 右のような長方形 ABCD があります。点 P は、辺 BC 上を B から C まで動きます。BP の長さが x cm のときの三角形 ABP の面積を y cm² として x と y の関係について調べましょう。 x と y の関係はどんな関係だろう。そこからどんなことがしらべられそうですか。 ・ y は x の関係になりそうだ。 y は x に比例するのではないかな。 ・ 底辺の長さを決めたときに、面積を求められるのではないかな。	見 三角形の底辺と面積が変化することに気付く。 見 三角形の面積の公式より、三角形の面積は底辺の関数であるといえる。	【研究内容 2-(1)】 ICT を利用して、実際に動いている動画を見ることで、変化する数量と変化しない数量を明らかにする。 ○表、式、グラフを求め、問題となる数量を求められるようにプリントを用意する。																												
つなぐ	変化する図形の面積を求めるには、どのように関数を使えばよいだろうか。 2 個人追究 教科書 158, 159 (1) ~ (5) の問題に取り組む。 (1) <table border="1"> <tr> <td>x (cm)</td> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td> </tr> <tr> <td>y (cm²)</td> <td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> (2) $y = 3x$ (3) $0 \leq x \leq 12, 0 \leq y \leq 36$ (4) (5) 三角形 ABP の面積が 30 cm² になるのは、BP の長さが 10 cm の時である。 表、式、グラフを用いてどのように調べたのか交流する。 (小集団→全体)	x (cm)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	y (cm ²)	0													見・考 三角形の面積は底辺の長さに比例すると気づき、既習内容から表、式、グラフのかき方を考える。 考 面積が 30 cm² のときの底辺は、表、グラフから読み取ればよいことに気付く。 考 面積が 20 cm² のような、表にない値、グラフの目盛にない値は式で求めるしかないことに気付く。	【研究内容 2-(1)】 机間指導の際、手が止まっている生徒には、ヒントカードを見せて、表、式、グラフをかけるように声をかけていく。
x (cm)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																		
y (cm ²)	0																														
見つめる	3 まとめをする。 目的に応じて、表、式、グラフを関連付けて考えればよい。 4 評価問題に取り組む。 三角形 ABP の面積が 10, 5 cm² のとき、BP の長さはどれだけか。 5 “学びの見つめ” を行う。 ・ 表は、わかっている値の上下に求めたい値があるため、わかりやすいが、表にない値は求められない。 ・ グラフは一目で量の変化がわかりやすく、格子点の値であれば、すぐにわかる。小数や分数であってもだいたい値はわかる。 ・ 式はわかっている値を代入すると、小数、分数であっても求められる。ただ計算しなければいけない。	深 表、式、グラフのどれを使うと問題を解決できるのか考え、表、式、グラフを使い分ける。	【研究内容 2-(1)】 表、式、グラフのどれを使って問題を解決したのか、なぜそれを利用したのかを明確にさせる。 【研究内容 2-(2)】 表、式、グラフのどれを使って問題を解決することがよいのかを考えさせることで、それぞれの特徴を理解し、自分の言葉でまとめさせる。 評価規準 表、式、グラフを用いて問題を解決することができる。 【思考・判断・表現】																												

2年3組 数学科学習指導展開案

1. 単元名 平行と合同 (全 19 時間)

2. 本時のねらい

実際に測ったり、角を切って集めたりする活動を通して、「星形の図形の先端の5つの角の和が 180° になる。」ということに気づき、既習の図形の性質を利用して、順序立てて説明することができる。

【思考・判断・表現】

3. 本時の展開 (9/19)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 図形の性質の復習 - 対頂角の性質 ・ 平行線の性質 - 三角形の内角と外角の性質 ・ 多角形の内角の和 2 問題提示 星形の図形の先端にできる5つの角の和は何度になるだろうか。 - 実際に分度器を使って測ってみると、179° になった。誤差もありそうだ。 - みんなの結果から、およそ 180° になると言えそう。	考 星形の図形の先端にできる5つの角の和を理解し、分度器を使って実測したり、実際に切って角をまとめたりして、何度になるか考えている。	【研究内容 2-(1)】 ICT を利用して既習内容の振り返りを全体で行ったり、いつでも振り返ったりできるよう、ロイロノート上に残しておく。 ○何度になるかを実測し、180° になることを理解させる。
つなぐ	学習した図形の性質を使って、「$\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$」と言えるか説明しよう。 3 個人追究→小集団交流→全体交流 - 三角形の内角の和が 180° なので、1つの三角形の内角に角を集めればよいはずだ。 - 三角形の内角と外角の性質から、2つの内角を1つの外角にまとめることができるはずだ。 ＜三角形の内角と外角の性質を利用した説明＞ 三角形の内角と外角の性質から $\triangle BCF$ で、$\angle b + \angle c = \angle AFG \cdots \textcircled{1}$ $\triangle DEG$ で、$\angle d + \angle e = \angle AGF \cdots \textcircled{2}$ また、三角形の内角の和は 180° なので、$\angle AFG + \angle AGF + \angle a = 180^\circ \cdots \textcircled{3}$ $\textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3}$ より、$\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$	見 5つの角の和が 180° であることを説明するために、180° であるといえる性質について考えている。 見 5つの角をまとめるために、図形の性質を使って、角を移動させればよいことに気付く。 深 星形の図形の中に、今まで学習した図形が隠れていないか考えることで、くさび形の性質や多角形の内角の和の性質を使うことで解決できそうであると気付く。	【研究内容 2-(1)】 図形の性質のどれを使って説明を行ったかを問ひかけ、明確にさせる。 【研究内容 2-(1)】 1つの方法で解けた場合には、他の解法がないかを問ひかける。 ○個人追究時に困っている生徒には、180° になる図形の性質について問い、どの角をどこに移動させることができればよいかをかける。 ○小集団交流時には、どの図形の性質を使ったかを明らかにして説明するように声をかける。
見つめる	4 まとめ 180° という図形の性質を見つけ、その図形の性質に結びつくように説明の方針を立てて、順序立てて説明すればよい。 5 評価問題 評 P.114 Q1に取り組む。 6 “学びの見つめ”を行う。 - 星形の先端の和が 180° になることを説明するには、今まで学習した図形の性質の中から、180° になる性質を見つけ、図形の性質を使って、角を移動させることで説明することができる。 - 他の図形の性質も、今まで学習した図形の性質を使って角を移動させることで、説明したり、角の大きさを求めたりすることができそう。	見・考 図形の性質を組み合わせて説明するときには、順序を考えることでより分かりやすく説明できることに気付く。 見 図形の性質を利用して、角を移動させることで、角の大きさを求めることができることに気付く。	【研究内容 2-(2)】 順序を考えて図形の性質を使うことで、より分かりやすく説明できることに気付かせ、より分かりやすくなるよう、自分の言葉でまとめさせる。 評価規準 結論を帰納的に予想し、既習の図形の性質を用いて、星形の先端の角の和が 180° になることを説明できる。 【思考・判断・表現】

第1学年5組 理科学習指導案

1. 単元名：「光の世界」（全9時間）

2. 単元にかかわって

（1）単元の目標

（1）身近な物理現象

身近な物理現象についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- イ 身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。

（ア）光と音（光に関する部分のみ抜粋）

㊦ 光の反射・屈折

光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解すること。全反射も扱い、光の屈折では入射角と屈折角の定性的な関係にも触れること。また、白色光はプリズムなどによっていろいろな色の光に分かれることにも触れること。

㊧ 凸レンズの働き

凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解すること。物体の位置に対する像の位置や像の大きさの定性的な関係を調べること。その際、実像と虚像を扱うこと。

（2）指導観

私たちは、光源からの白色光が対象物で乱反射し、その一部が自分の目に入ることににより、対象物が「見える」ようになるのだが、そんなことは知らなくても「見る」ことができる。また、近年では、生活環境の変化により、完全に光が無い場所ばかりか、単色光により「色彩がなくなる」経験もしていない生徒が多くなっている。「光」があるから「見える」ということを、まず認識させる必要がある。

小学校第3学年において、光は集めたり反射させたりできることについて学習している。本単元では、光の進み方に関する身近な現象と関連させながら、光の反射、屈折や凸レンズを用いた実験を行い、それぞれの規則性を見いださせることが主なねらいである。特に、屈折については、折れ曲がったり長さが変わったりするように見えるという現象そのものに違和感を覚え、苦手意識をもつ生徒が予想される。一方で、その原理が凸レンズにも生かされているため、確実に理解をさせたい事項である。

本時は全反射を取り上げる。前時までの学習内容を踏まえ、「見えない」＝「光が届かない」という考えにより光の進路を予想したり、実験結果を説明させたりすることを通して、屈折や全反射という境界面での光学現象への理解を深めたいと考えている。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－(1) 単元および単位時間に身に付けさせる資質・能力を明確にもち、見方・考え方を働かせている生徒の姿を明確にした単元指導計画の作成

学習指導要領解説理科編において、理科における見方・考え方は下記の通り示されている。

「自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること」

また、見方については、領域ごとに特徴的な視点として下記の通り補足されている。

「エネルギー」を柱とする領域では、自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉えること、「粒子」を柱とする領域では、自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉えること（中略）ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれの領域固有のものではなく、その強弱はあるものの他の領域において用いられる視点でもあり、（中略）これらの視点を必要に応じて組み合わせて用いることも大切である。

これらのことを踏まえ、本単元はエネルギー領域に位置付けられてはいるが、視点としては粒子領域に挙げられている「質的・実体的な視点」も含めて取り上げていくこととする。本単元で扱う内容として、光の反射・屈折やレンズが作る像など、視覚で現象を確認する活動が多く、実体的な視点が必要不可欠であると考えている。

本単元の最も重要な見方として、「見える」＝「光が目に入る」ことをよりどころとして展開していく。生徒の日常生活の経験や実験などで得られた事実や既習内容を、理科の見方・考え方を働かせながら、分析し、資質・能力の習得につなげられる構成にしたいと考えた。

単元の導入では、平易な実験により実感を伴った理解を通して、「見える」＝「目に光が入る」ということの理解を図るとともに、事実を根拠に基づいて説明させる活動を通して学習内容の確実な定着をねらっていく。また、反射の学習では、実際には光は反射して目に届いているが、「直進しているものとして見えている」ことによって「見かけの位置」が決まることをおさえる。

また、単元中盤では光の屈折を扱うが、反射と比較すると屈折という事象には違和感を覚える生徒が多く、屈折を正しく捉えることが苦手な生徒が多いと感じる。そのため、全反射の学習を独立させ、境界面で光が折れ曲がって進む現象のみに着目させる学習活動を行った上で、全反射の授業を配置する

こととした。これにより、屈折を既習内容として活用できるようになり、理解につながると考えている。

本時取り扱う事象については、単元の導入から提示し、事象を理解・説明できることを目標として位置づけていく。生徒が学びを進め、境界面で光の進み方が変わる（反射・屈折）ことを理解し、活用するための題材としている。

単元末で扱う凸レンズは、これらの光の見え方、屈折の知識を総動員して活動にあたることとなるが、例年、既習内容とのつながりを見いだせない生徒が見られる。そのため、意図的に既習内容との関係性を感じさせられる事象を提示することで、知識を活用できるような授業展開を工夫していきたい。

2-（1）個別最適な学びを実現するための手立てを明確にした指導

本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
評価規準	水槽の向こうにある物体が見えなくなる事象について、光の進み方を全反射の考えを用いて説明することができる。【思考・判断・表現】	透明な物質から空気への光の進み方を全反射の考えを用いて説明することができる。【思考・判断・表現】	透明な物質から空気へ光が進むとき、入射角が一定以上大きくなることで全反射となり、屈折が起こらなくなることを理解できていない。
手立て	装置の模式図に、いくつかの光の道筋の書き始めを示すことで、空気→水→空気への2つの境界面での光の様子を考えさせる。	入射角を0度から徐々に角度を大きくしていくときの連続的な変化を、確実にタブレットで撮影し、見返すことができるようにする。	入射角が0度、20度、40度、60度、80度の結果をタブレットで撮影し、見返すことができるようにする。

○実験の条件（入射角）ごとの記録を残す

入射角が0度、20度、40度、60度、80度の場合を調べ、タブレットにより記録を残しておくよう指導する。また、0度から90度まで連続的な変化も記録する。これらにより、生徒は自分が確認したい条件を容易に見返すことができ、屈折の様子がどのように変化をするかを確かめやすくなると考えた。

○ヒントカードの活用

考察において、導入事象の光の進み方を考える際にヒントカードを使えるようにする。対象物から進む光が、どのように屈折（全反射）するかを考えるうえで、どの向きに光の矢印を書き始めるかを定められない生徒がいると考えられる。光の方向を3つに絞ることで、それぞれの光の進み方を考えればよく、思考の迷いを払拭できるとともに、理解につながれると考えている。

2-（2）生徒が見方・考え方を働かせて学習した自己の変容や成長を実感できるようにするための振り返り“学びの見つめ”の工夫

学習の事後に、振り返りとして学びの見つめを記入する。授業で学んだことのまとめや学習を通しての感想などを書くことにとどまらず、自分や仲間の学び方の良かった部分を認めたり、日常生活や既習事項とのつながりを軸に書きまとめたりすることを行う。これを積み重ねることにより、単元を通しての理解の深まりや学びに対する主体性を自己認識することにつながり、学びの充実感が得られるようになると考えている。

本時の“学びの見つめ”では、「こう考えた」の視点で振り返りを行う。この視点は、授業での思考の過程を振り返り、考え方の質を高めたり、より深い思考につなげたりするための思考の整頓を行

うためのものである。どのように考え、なぜそのような考えをもつに至ったのかを振り返ることで『探究の過程を振り返る活動』を行い、実験の必然性や考えの深まりを実感させたい。考えの深まりを実感できるよう、探究活動の前後での自身の意見・考えの変化を説明させたり、どのような視点から考えたのかを振り返らせたりなどする。

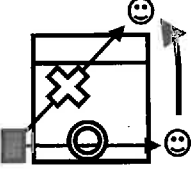
5. 単元指導計画「光の世界」(全9時間)

時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	物の見え方1 ～光の直進～	様々な形のホースを覗いて炎が見えるかどうかを考え、確かめることを通して、光が直進し、目に届くことで見えることを理解することができる。【主体的に学習に取り組む態度】	・ホースが曲がっていると、見えなくなるのは、光が直進しているからだと考ええる。 ・目に光が届くと見え、光が届かないと見えないと考える。
2	物の見え方2 ～乱反射～	光を自ら発さない物体でも見えている事実から、光源からの光を反射していることに気づき、乱反射を理解することができる。【思考・判断・表現】	・物体が見えるのは、物体から自分の目に光が進んでいるからだと考ええる。 ・光は直進しているから、どの角度からでも見えるためには、どの角度へも光が進まなければならないと考える。
3・4	光の反射	鏡に反射する光の道筋を調べる実験を行い、反射の際の規則性に気づき、見かけの位置を理解することができる。【知識・技能】【主体的に学習に取り組む態度】	・光を当てる条件(入射角)を変え、どんなときも反射の法則が成り立つかを調べる。 ・鏡がなく、光が直進している場合を考えることで、見かけの位置を説明する。
5	光の屈折1 ～境界面での屈折～	光の屈折の実験を行い、空気と透明な物体との境界では光が折れ曲がることに気づき、光の屈折の規則性を理解することができる。【知識・技能】	・光を当てる条件(入射角)を変え、屈折の仕方がどう変わるかを調べる。 ・空気から透明な物体、透明な物体から空気と、場合を分けて光の進み方を捉える。
6 (本時)	光の屈折2 ～全反射～	入射角を変えながら光の進み方を調べる実験を通して、屈折が起こらず全て反射する現象が起こることに気づき、光の進み方を全反射の考えを用いて説明することができる。【思考・判断・表現】	・見えなくなるのは、目に光が届かなくなるからだと考ええる。 ・屈折の考え方を使って、光の進み方を考える。 ・光を当てる条件(入射角)を変え、屈折の仕方がどう変わるかを調べる。 ・全反射により、空気中へ光が進まなかったと考え、説明する。
7	レンズのはたらき1 ～光の進み方と像～	凸レンズによる様々な現象を確かめることを通して、見え方や光の進み方の特徴に気づき、レンズの作る像について理解することができる。【知識・技能】	・虫眼鏡の集光とレンズの焦点を関連付けることができる。 ・レンズを通した光の進み方から、実像が倒立する理由を考える。 ・見かけの位置の考え方を使って、虚像が見える理由を考える。
8・9	レンズのはたらき2 ～凸レンズによる像～	凸レンズが作る像を調べる実験を通して、像のでき方の規則性に気づき、作図により像のでき方を説明することができる。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】	・光源とレンズの距離の条件を変えながら、像のでき方がどう変わるかを調べる。 ・レンズを通した光の進み方を生かして、光の作図により、像のでき方を考える。

6. 本時のねらい

入射角を変えながら光の進み方を調べる実験を通して、全反射が起こる条件に気づき、光の進み方を全反射の考えを用いて説明することができる。【思考・判断・表現】

7. 本時の展開（6／9）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 事象提示 視く角度により見えなくなる物体 - 正面からだに見えるのに、斜め上からだが見えないぞ。 - 水槽の中の水で屈折することが関係しているのかな。 	見見えなくなるのは、目に光が届かなくなるからだと考え	○この事象については、単元の導入から継続的に提示のうえ、動画を配付して、単元を通して明らかにするという目標を持たせる。
つなぐ	2 予想 見える角度・見えない角度、それぞれの光の進み方を考える。 - 空気→水→空気と2回屈折するはずだよ。水から空気へ進むときの屈折のしかたを詳しく調べる必要があるな。 - 見えないのは、物体から出た光が目が届かないからだ。 - 光の角度によって屈折の仕方が変わるんじゃないかな。 3 課題づくり 見る位置によって、物体が見えなくなるのはなぜだろうか。	見屈折の考え方を使得、光の進み方を考える。	【研究内容 1-(1)】 前時に学習した屈折が今回も起きていることを想起させ、考えさせる。 ○光が目が届かなくなることを押さえる。
見つめる	4 実験 半円形レンズで入射角による違いを調べる。 - 入射角を変えながら、光の進み方を調べ、タブレットを用いて、写真や動画で記録に残す。  5 結果 全反射について全体で結果を確認する。 - 光が透明な物体から空気へ進もうとすると、入射角がある角度（今回の実験では約 45 度）より大きくなると、境界面で全て反射し、空気の方へ光が進まなくなる。 - このような現象を全反射と言い、このとき屈折は起こらなくなる。 6 考察 導入事象の物体の光の進み方を考える。 - 水槽の正面だと、入射角が小さく、屈折して進む。 - 水槽の上方（側方）だと、入射角が大きくなり、水で全て反射して、空気（目）の方へ光が進まなくなる。 7 まとめ ○水槽の中の光の進み方を、線光源を用いて確認する。 光が透明な物体から空気中へ進むとき、入射角が大きくなると境界面で全ての光が反射する。これを全反射という。 全反射により光が空気中に進まなくなる位置があるため、その位置では物体は見えなくなる。 8 “学びの見つめ”を行う。（視点：こう考えた） - はじめは、見えなくなるのが不思議で、さっぱり意味が分からなかったけど、これまでの学習に加えて、今回学んだ全反射が起こっていると考え、見えなくなる理由を説明できるようになった。 - 屈折や全反射によって、こうなると予想した光の通り道から見ると、物体が見えた。見えるということは、目に光が届いているということだから、予想が当たっていると分かってうれしかった。	考光を当てる条件（入射角）を変え、屈折の仕方がどう変わるかを調べる。 見・考全反射により、空気中へ光が進まなかったと考え、説明する。	【研究内容 2-(1)】 入射角を 0 度、20 度、40 度、60 度、80 度、と変えて、どのような変化があるか確かめさせる。 ○結果については、ロイロノートで随時共有する。 ○タブレットで結果を記録させ、適宜見直せるようにする。（静止画・動画） 【研究内容 2-(1)】 対象物から出る光の矢印の始めの部分のみ示し、続きを考えるよう促す。 ○対象物から、3 方向に伸びる光の矢印を示した図を使うようにする。
			評価規準 入射角を変えながら光の進み方を調べる実験を通して、屈折が起こらず全て反射する現象が起こることに気づき、光の進み方を全反射の考えを用いて説明することができる。 【思考・判断・表現】

3 年 2 組 理科学習指導展開案

1. 力のはたらき方 (全 10 時間)

2. 本時のねらい

石垣を船で運ぶにはどのような工夫をすればよいか、既習事項をもとに予想し仮説を立てて検証する活動を通して、浮力は物体の水中にある部分の体積が増すほど大きくなることに気付く、物体にはたらく力の関係を図や写真を用いて考えることができる。【思考・判断・表現】

3. 本時の展開 (10/10)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 浮力について復習する。 - 水中の物体にはあらゆる方向から圧力がはたらく。 - 水圧は水中の物体より上にある水の重力によって生じる。 - 物体の上面にはたらく下向きの水圧よりも、物体の底面にはたらく上向きの水圧のほうが大きいため、水中の物体に上向きに浮力がはたらく。 - 体積が大きいほど、浮力は大きくなる。 2 江戸城の石垣について説明を聞く。 - 伊豆から江戸まで陸ではなく海を経て運び、船を沈めずどのように運んだのか。 江戸城の石垣の石を船で運ぶにはどうすればよいだろうか。		○TV に図や写真を写し状況を整理する。 ○浮力がどのようにしてはたらくのかきちんと押さえておく。 【研究内容 2-(1)】 前時までの浮力のはたらき方を想起させ、状況を抑えて考えさせる。 ○発泡スチロールとおもり、輪ゴムを用いた簡易セットで考えさせる。 ○「もし●●すれば石垣の石を船で運べるだろう。なぜなら、○○だからだ。」という形で仮説を立てさせる。
つなぐ	3 班で仮説を立てる。 - 船の中に積むと重力によって沈んでしまうだろう。 - 船に一つずつ乗せて運べば、重力も少なくて済み、船は沈むことなく運ぶことができるだろう。 - 船のふち(底)に石をくくりつけて運べば石にも浮力がはたらく、石垣の石も船で運ぶことができるだろう。	見 船と石垣の石の質量によって船が沈むことに気付く。 見 体積が大きいほど、浮力は大きくなることから石垣の運搬方法について考える。	【研究内容 2-(1)】 簡易セットを用いて体感的に結果を見ることを通して、どのような力によるものか考えさせる。 【研究内容 2-(1)】 図や写真を用いて作図する作業を通して、船と石垣の石にどのような力がはたらくているのか整理させる。
見つける	4 検証実験をする。 - 船の横にくくりつけると、バランスが崩れて沈んでしまった。 - 船底にまとめてくくりつけると船を浮かせて移動させることができた。 5 自分の班の仮説、結果と浮いた理由(浮かなかった理由)を考察する。 - 船から石を出すことによって船だけでなく石にも浮力がはたらく、運搬できるようになった。 - 石のつり合いが保てるようにくくりつけないと、重さによってバランスが崩れ、運搬できなくなる。 6 実験結果と考察を交流する。 - 船の前後左右、船底に石をくくりつけることによって、船だけでなく石にも浮力がはたらく、大きな石垣も船で運搬することができる。 - 左右に石をつける場合、つり合いが保てるように石を配置する必要がある。 7 まとめる 石を船で運ぶには、水中にある部分の体積を増やして浮力を大きくすればよい。 8 “学びの見つめ”を行う - はじめは石の重さで船は沈むだけだと思っていたけど、○○さんが石は濡れてもよいという発想から、石を船の外に出して運ぶことで浮力を大きくすることができると気付くことができた。 - 水につかる船の体積が大きくなると浮く力も大きくなり、重い石も運ぶことができたことが分かった。	考 さまざまな方法を試す中でよりよい運び方について議論しながら考える。 考 石を水の中に入れるだけでなく、4つの石のつり合いについても目を向けて考える。 深 自分の考えと仲間の考えを比較しながら交流する。 見・考 物体の水中にある部分の体積が増すことで、浮力が大きくなることが分かる。	○図や写真を用いて力のはたらき方を図式化しながら浮いたり沈んだりする理由を説明させる。 評価規準 石垣を船で運ぶための方法を考え、実証していく活動を通して、浮力は物体の水中にある部分の体積が増すほど大きくなることに気付く、物体にはたらく力の関係を図や写真を用いて考えることができた。 【思考・判断・表現】 【研究内容 2-(2)】 仲間と議論し検証し、結果を交流する活動を通して、「学びの見つめ」でどのような気づきがあったか、自己の姿容があったかを視点として考えさせる。

第3学年5組 音楽科学習指導案

1. 題材名：「ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう」（全5時間）

2. 題材にかかわって

（1）題材の目標

- ・音階の特徴及び音のつながり方の特徴を理解し、表わしたいイメージと関わらせながら旋律をつくることができる。
- ・表わしたいイメージと関わらせながら、音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解するとともに、それを生かしたまとまりのある旋律を工夫してつくることができる。

（2）指導観

本題材では創作の活動を通して、ハ長調の音階を使ったまとまりのある旋律をつくることを目標としている。その際に知識や技能を習得して旋律をつくるような一方的な活動では無く、得た知識や技能を生かし試行錯誤しながら創意工夫を行うことが大切である。そのために、まずは題材の最初の活動で生徒1人1人が本題材における旋律づくりで表わしたい具体的なイメージをもち、各単位時間に学んだ創作技能を生かしながら創意工夫ある活動を行っていききたい。指導に当たっては、創意工夫する過程を大切に、思いや意図に沿った創作表現ができることの楽しさや喜びを実感できるようにしていきたい。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－（1）題材及び単位時間に身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、題材を貫く課題及び、音楽の諸要素を手掛かりにした見方・考え方を働かせる視点を位置付けた題材計画の作成

本題材を貫いて取り上げたい音楽の諸要素として、旋律・リズム・構成がある。旋律創作ではシンブルに音を組み合わせることでも旋律をつくることはできる。しかしそれだけでは旋律をつくるための技能を身に付けるだけの活動になってしまう。そこで本題材ではまず、それぞれの生徒が自分のつくりたい旋律のイメージを考え、それを実現していくための手立てとして、音楽の諸要素である旋律・リズム・構成の工夫を取り入れながら音楽的な見方・考え方を働かせ創意工夫を行っていく活動を繰り返し行う。既存の旋律の鑑賞活動、自身のつくる旋律創作の活動を通して、繰り返しそれらの要素と曲想との関わりを考えることで、音楽的な見方・考え方を働かせた活動を仕組んでいきたい。

2－（１）生徒１人１人が自分の表現したいイメージを大切にしながら、個に応じた思考活動を繰り返し、より深い学びを実現するためのICT機器の活用

本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
評価規準	和音以外の音を効果的に用いながら、自分の思いにあった音のつながりを選択しながら工夫した旋律をつくることができる。	和音以外の音を効果的に使いながら、音の動きの特性を理解して旋律を工夫することができる。	和音の構成音または和音以外の音を効果的に活用することができず、無作為に音を配置した旋律をつくる。
手立て	○交流や仲間の作品のよさから、音のつながりの工夫点をつかみ、自身のイメージに近づけるための工夫をより膨らませ、旋律の工夫を行う。	○仲間との小集団交流や仲間の作品のよさから自身のイメージに近づけるためのヒントを得て、作品の工夫につなげられるようにする。	○それぞれの音のつながりかたとそこから生まれる特質をヒントカードとして準備し、生徒の意図に合わせた音の選択ができるようにする。

○生徒１人１人が和音の響きを感じながらそれぞれのイメージした旋律づくりに取り組めるためのデジタルコンテンツを使用したタブレットの活用

旋律創作の授業を行うに際して、タブレット端末を使った旋律創作を行う。これまで旋律創作は五線譜上やワークシートでの創作が中心で、つくった旋律がどのようなになったのかを確認するためにはリコーダーで演奏する、鍵盤楽器などで音を弾いてみるという確認方法であった。しかしつくった旋律を楽器で演奏しながら旋律の工夫点を確認するという技能が求められ、中低位の生徒にとってはかなり難しい活動となっていた。そこで今回はタブレット上の簡単な操作で創作を行うことができ、つくった旋律を繰り返し確認しながら試行錯誤を行えるよう、デジタルコンテンツを使用して創意工夫を行っていくようにした。音の動きやリズムの変化による旋律の特質の変化に意識を向けながら、それぞれの生徒が自分の思いや意図を表現できる創作活動にしていきたい。

○見方・考え方を働かせながら創意工夫を行うための小集団交流

仲間との交流から創意工夫の力を高め合う活動として、聴き比べによる旋律の変化を感じ取る小集団活動を行う。これまでの旋律と本時の学習内容を取り入れた旋律を聴き比べてその変化を交流する活動を通して、自分の考えた工夫点が他者にどのように伝わるのか、仲間はどのような工夫を行っているのかを交流活動から学び、後半の旋律創作に取り入れていけるようにする。

○表現したいイメージと旋律の動きがつながりやすくするための支援ヒントカード

順次進行・跳躍進行・上行系の旋律・下降系の旋律の特徴と自身のつくりたい旋律のイメージがつながりにくい生徒のために、それぞれの旋律の動きによって生み出される具体的なイメージをヒントカードとして提示できるようにする。ヒントカードをもとに、生徒の表現したいイメージと近い旋律の動きを選択しながら、それぞれの生徒なりに音の動きを工夫していくことで、イメージと本時の学習内容がつながりにくい生徒も創作が進められるようにしていく。

2-(2) 生徒が見方・考え方を働かせて学習したことによる自己の変容や成長を実感できるようにするための振り返り“学びの見つめ”の工夫

本題材では、題材を貫く諸要素として「旋律」「リズム」「構成」を設定した。生徒は題材の学習の中で、これらの要素を頼りにしながら、自身のイメージに合った旋律を創作するために繰り返し3つの要素を意識しながら、それらの要素の変化による音楽的な変化を感じ取る活動を行っていく。それらの要素による変容を感じ取るために、それぞれの単位時間のラストには、これまでの旋律と本時に工夫した旋律とを聴き比べ、本時取り入れた工夫によりどのような音楽的な変化があったかを振り返り、「こう考えた」で見つめていく。その振り返りをまとめとして小グループで交流し、仲間の工夫や自身の工夫点を感じ取り、学びのさらなる深まりにつなげていく。

5. 題材指導計画「ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう」(全5時間)

時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	ハ長調でつくられた旋律の特徴を感じ取り、自分のつくりたい旋律のイメージをもつ。	ハ長調の様々な旋律を鑑賞する活動を通して、曲想の変化と思ひ浮かぶイメージの変化との関わりに気づき、自分の作る旋律のイメージをもつことができる。【思考・判断・表現】	- 和音進行による音の移り変わりの変化を感じ取り、曲想に合わせて自分の旋律づくりの土台となるイメージをもつ。 - 鑑賞する旋律ごとの雰囲気の違いを感じ取り、旋律の動きやリズムの特徴、全体の構成の特徴を感じ取る。
2	自分のつくりたいイメージに合ったリズム動機を考え、動機を生かしたまとまりのある8小節のリズムをつくる。	自分のイメージに合ったリズム創作を行う活動を通して、構成の仕方による全体のまとまりに気づき、自分のイメージに合ったリズムをつくることことができる。【知識・技能】	- 表現したいイメージの基となるリズムの動機を考える中で、音符の組み合わせによる特徴の違いを理解しながらリズムを組み合わせてリズム創作をしている。 - 自分の表現したいイメージに合わせて、リズムの構成(反復・変化)を根拠をもって使用しながら工夫を行っている。
3	和音進行による響きの移り変わりを味わいながら、和音に含まる音を使ってイメージに合った旋律をつくる。	和音の構成音を使って旋律をつくる活動を通して、和音の響きに合わせた旋律の移り変わりの美しさに気づき、旋律を創作することができる。【知識・技能】	- 和音の構成音の中で表現したいイメージに合わせて、旋律の音の動きを工夫している。 - 仲間の創作した旋律を互いに聴きあいながら、リズムや音の動きによって表現されている曲想を感じ取り、具体的な根拠を伴いながら評価し合う。
4 (本時)	旋律に和音以外の音を取り入れ、上行、下降、順次進行、跳躍進行などを使いながら、音のつながり方を工夫する。	和音以外の音を旋律に取り入れる活動を通して、音の進行の仕方による曲想の変化に気づき、自分のイメージにあった旋律をつくることことができる。【思考・判断・表現】	- 旋律の動き方の特徴を感じ取り、自分のイメージに合った音の動き方を選択して創作する。 - 本時のなかで自分や仲間の旋律がどのように変容したのか、音の動きに関わらせながらまとめる。 - 仲間のつくった旋律を鑑賞し、つくり出したイメージと音の動きの工夫点に関わらせながら、そのよさを知る。
5	仲間のつくった旋律を鑑賞しながらそれぞれの工夫点を学ぶ。	仲間のつくった旋律を交流する活動を通して、思いや意図に合わせて工夫された旋律づくりのよさに気づき、リズムや旋律の動き、8小節の構成に着目しながらよさを味わうことができる。【思考・判断・表現】	仲間の創作した旋律を鑑賞しながら、その曲想の美しさや工夫点の面白さを味わうとともに、それらの曲想を生み出している音楽的特徴を音楽の諸要素と関わらせながら、批評する。

6. 本時のねらい

ハ長調の音階を使った旋律に、上行系や下降系、順次進行や跳躍進行などを使った和音の構成音以外の音を取り入れる活動を通して、旋律の進行の仕方が生み出す特質の変化に気付き、自身のつくりたいイメージに合った旋律の工夫を行うことができる。【思考・判断・表現】

7. 本時の展開（4／5）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 ハ長調でつくられた旋律を鑑賞し、そのよさを交流するとともに、旋律の動き方（上行・下降・順次進行・跳躍進行）を復習する。 ・順次進行のなめらかな動きで落ち着いた雰囲気の旋律だな。 ・跳躍進行が多く音が上下してハラハラする旋律だ。 2 和音に含まれる音を使った旋律と和音以外の音を使った旋律を聴き比べ、その違いを交流する。 ・旋律の動きがなめらかになって、夕日がゆっくり昇っていく感じにより近づいた感じがする。	見旋律の動きやリズムに着目しながら旋律の美しさを味わっている。 見和音以外の音が含まれていることに気付く、旋律の滑らかさや跳躍の意外性に気付く。	○旋律の動き、リズムなどの視点でよさを聴き取り、題材を通しての視点を明確にさせる。 ○本時の目指す姿に意欲がもてるような提示を行う。 ○動き方による特性がつかみやすいような掲示や音の提示を準備する。
つなぐ	和音以外の音を取り入れながら、自分のイメージに合った旋律をつくらう 3 タブレットを使い、音の動きを工夫しながら前半4小節の旋律づくりを行う。 ・自分は落ち着いた感じで進んでいくイメージだから順次進行をたくさん取り入れてみよう。 ・中盤で少し変化を出していくために、跳躍進行を入れてみよう。	見・考旋律の動き方の特徴を感じ取り、自分のイメージに合った音の動き方を選択して創作する。	【研究内容 2-(1)】 ・一人一人が旋律創作のためのデジタルコンテンツを使い、自分の旋律の動きを確認しながら、自身のつくりたいイメージに近づけるように工夫を行わせる。
見つめる	4 同一テーマの小集団グループでそれぞれの旋律の工夫を交流しながら、工夫を認め合ったり、アドバイスをしたりする。 ・前時の旋律に順次進行を取り入れたことで、なめらかなイメージがより強く伝わる旋律になっている。 ・少し単調になってしまっているの、場面が変わるところで跳躍進行を取り入れてみるとよいのでは。 ・前半は盛り上がりがよく出ているので、後半の旋律は落ち着いた感じにするために、下降系の旋律にしてもよいかな。 5 仲間との交流を元に、自分の旋律を完成させる。 ・跳躍を取り入れた旋律は意外性がある面白かったので、自分も後半は跳躍を取り入れてみよう。 ・前半は少し単調な部分に少し跳躍進行を取り入れて変化を加えてみよう。 ・後半は旋律を下降系の動きにしていて、終わった感じにしてみよう。 6 仲間の作品から工夫点を学ぶ。 7 “学びの見つめ”「こう考えた」で本時の工夫をまとめる。 ゆったりと人々が過ごし、日が暮れていく様子を旋律で表現しようと思ったときに、上行から下降の旋律の動きや順次進行を多く取り入れ、なめらかな旋律の動きにすることで、ゆったりと落ち着いた曲想が生まれ、イメージに合った旋律に近づいた。また、仲間の発表では、跳躍進行を取り入れ、意外性や弾んだ様子を表現できることを感じ取ることができた。	見・考仲間のつくった旋律の工夫点を音の動き方の視点で捉え、仲間のつくりたいイメージを実現するためのアドバイスを伝える。 考仲間のアドバイスをもとに、自分のイメージする旋律により近づけるよう音の工夫を行う。 見・考本時のなかで自分や仲間の旋律がどのように変容したのか、音の動きに関わらせながらまとめる。 見仲間のつくった旋律を鑑賞し、つくり出したいイメージと音の動きの工夫点を関わらせながら、そのよさを知る。	【研究内容 2-(1)】 ・工夫点のよさやアドバイスポイントが明確になるように、つくりたいイメージや旋律の変移が伝わりやすいワークシートを準備する。 ・小集団（3～4人）での交流を行いタブレットの画面を見せながらアドバイスなどを行わせる。 ・交流の視点が明確になるようなヒントカードを用いて交流を行わせる。 【研究内容 2-(2)】 ・前時までの旋律と本時を聴き比べ、自身のつくりたいイメージと照らし合わせたうえで、どういった工夫によりどのように旋律が変化したか自分の考えをまとめさせる。 評価規準 旋律に、和音の構成音以外の音を取り入れ自身のつくりたいイメージに合った旋律をつくらう。

第1学年4組 美術科学習指導案

1. 題材名：「人間っておもしろい」（全10時間）

2. 題材にかかわって

（1）題材の目標

本題材は、新学習指導要領第1学年「A表現」（1）ア、（2）ア、「B表現」（1）アを受け、設定したものである。

A表現（1）ア（ア）対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。 （2）ア（ア）材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。 B鑑賞（1）ア（ア）造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

（2）指導観

本題材は、絵画分野である自画像をデッサンで描く。絵画分野の中から風景画や静物画でなく、自画像を題材として選んだのは、2つの理由がある。1つ目は、美術に関する基礎として、ものの形を捉え、描写するという技術を今後すべての制作活動のアイデアスケッチを充実したものにするという点から学ばせたいため、複雑な形で、陰や立体感を表現する基礎を学ぶモチーフとしてよいと考え、自画像を設定した。2つ目は、6時間と長時間の制作時間に設定し、深くモチーフを研究する上で、身近でイメージを受けやすい顔をモチーフとする自画像を選択した。

この題材では、1本の鉛筆で写實的に主題を捉えた表現を突き詰めて描いていく。デッサンの技能はもちろん、見たものの印象の表現という面でも指導する必要がある。モチーフの形を把握し、描写するという美術の基礎的な技術を身に付けさせることをねらいとしているため、生徒が込める思いや表現はキュビズムのような表現ではなく、写實的に形や色を捉えつつ、鉛筆の荒々しさや柔らかさなどの描き方、配置や顔の向きなどのレイアウトなどで主題を表現していく。線のタッチなどで、主題を表現するため、背景に具象物を配置したり、サングラスやハチマキなどの普段身につけないような小物を描写したりしない。鉛筆での多様な表現方法を知り、用具の生かし方を見つけ、主題に応じて技法を選択していくことができるようにしていきたい。また、モチーフ描写の仕方を段階に合わせて指導することを大切にしたい。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－（１）題材および単位時間に身につけさせる資質・能力を明確にもち、造形的な見方・考え方を働かせている生徒の姿を明確にした指導計画の工夫

本時、身に付けさせる資質・能力は、「感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想し構想を練るなどの資質・能力」と「自分の表現を具体化するために、材料や用具などを創意工夫したり、見通しをもって描いたりつくったりするなど創意的に表す技能」である。

本題材で見方・考え方を働かせている姿とは、仲間の作品を見て感じたよさや美しさを多様な視点で捉え、自己の主題を表現するのに適しているものを選択したり、表現を組み合わせたりして独自の表現を生み出している姿である。また、自分の内面だけでなく、顔の造形から感じるイメージや、頬や髪を触ったときの暖かさや柔らかさなどの感じたことを、鉛筆での表現に置き換える。

本時は主題をより具体的に表現するには、どのような手段があるのかを見つけ実践する。生徒が作品を制作している途中で描写に集中しすぎて主題を忘れないように、毎授業、主題を振り返る時間を授業の始めに設け、主題に沿った作品制作を意識させる。

2－（１）ＩＣＴを活用して生徒の発想力を引き出し、制作に生かす、個別最適な学びを実現するための手立てを明確にした指導

デッサンは技法やその応用が多様な題材であるため、技能面での個別最適な学びを実現するための手立てを与える。つまずきに合わせた助言と、技能のレベルに合わせた助言の２つのベクトルでヒントカードを作る。例えば、「境界線の表し方に迷っている」というつまずきにおいて、レベル１は「境界線の表し方（説明）」という実践的な手順を動画や写真で説明しているカードから、自分の技量や表現技法から感じる印象から技法を選択する。レベル２は「境界線の表し方（作例）」という実際の作例が載っているカードから、生徒自ら表現を見つけ、その表現から感じたことをもとに自分の主題に照らし合わせ実践していく。説明カードや作例カードが多ければ多いほど、多様なつまずきに対応できるが、努力を要する状況の生徒には、多すぎる資料はかえって混乱させてしまうことになるため、何がわからないのかを明確にするチャートや、自分に合ったヒントを見つけ出せるような見出しやサムネイルの工夫をする。

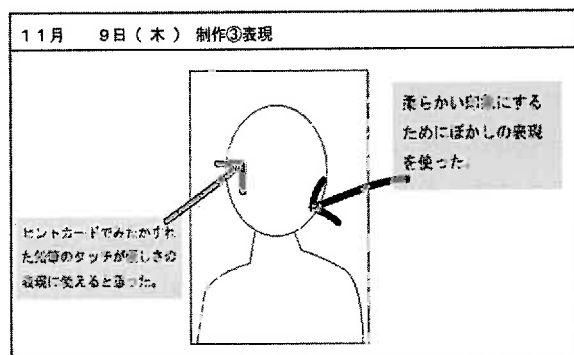
本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
評価規準	ヒントカードを使用せず、独自の表現を考えたり、ヒントカードの表現方法を組み合わせたりして、作品を表現している。	主題に合ったヒントカードを選択し、その技法を生かして作品を制作している。	自分の課題を把握できず、適切なヒントカードを選択できない。また、主題に合ったヒントカードを選択できない。
手立て	自分の作品を客観的に見て、表現したいことを表現するための手段を繰り返し考えさせる。	制作中の自分の作品を見て、新たな課題を見つけヒントカード以上の表現や応用した表現を模索させる。	示範作品を多く用意し、どう感じるのか、自分の表現に合うのはどれかを感じて、それに応じたヒントカードを選択させる。

2-(2) 生徒が「造形的な見方・考え方」を働かせて学習した自己の変容や成長を実感できるようにするための振り返り“学びの見つめ”の工夫

ひと目で変容や成長がわかるのは写真であるため、ロイロノートを用いて作品の途中経過の写真を、一覧で見られるようにする。さらに、コメントカードは黒板に掲示する3つの学びの色ごとにカードを分け、視覚的にわかりやすいようにする。学びの見つめの一覧を見ると、視覚的に自己の変容を実感し、その変容の要因となっているものを言語化しやすくなると考える。

学びの見つめの内容「できた・わかった」では、仲間との交流の中で広がった見方や考え方、授業内容やヒントカードから新たに知ったことなど、考えの変容を記入する。「こう考えた」では、表現活動において、言葉にしないと伝わらないような意図や工夫、示範作品や仲間の作品から感じたことや考えたことを記入する。「学び方の見つめ」では自分の主題にあったヒントカードを使用したのか、つまりきや課題をどのような手段で解決しようとしたかや、制作の見通し、現状の課題を解決するための手立てを書けるよう指導していく。本時は、「できた・わかった」の内容で、どのようなヒントカードの技法を利用して、自分の主題を表現することができたのか、また、その表現を選択した意図や作例を見て感じたことなどを具体的に述べるできるように指示していく。



【図1：作品の写真をメインに考える学びの見つめの例】

できた・わかった
・ 仲間との交流で広まった見方・感じ方 ・ 新たに知ったこと ・ 変容した考え方
こう考えた
・ 自身の作品や仲間の作品，示範作品のよさや美しさなど感じ取ったこと ・ 自身の作品に関する創意工夫
学び方の見つけ
・ 自己課題をどのような手段で解決したのか ・ 制作の見通し

5. 題材指導計画「人間っておもしろい」(全10時間)

〈貫く課題〉「わたし」をデッサンで表現するにはどのような方法があるのだろう。			
時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	鑑賞「デッサン」	身近な人のデッサンの自画像を見て感じたことや思ったことを交流する活動を通して、デッサンでの自己表現について考えることができる。【思考・判断・表現】	・デッサンを鑑賞して、自画像の人物はどのような人なのかを想像する。 ・仲間の意見を素直に受け止め、多様な見方・感じ方を知る。 ・有名画家のデッサンを見ることで、ものの形やかげを的確に描写する技術面のみでなく、思いや感情を感じられる表現面を感じ取り、記述している。
2	描画の基礎	デッサンの基礎技術を学ぶ活動を通して、技法の違いから感じる印象が違うことに気付き、進んで多くの表現を用いようとするすることができる。【知識・技能】	・鉛筆一本での多様な表現技法を学び、それぞれの表現から感じる印象から自身の主題を生み出したり、主題に合った表現を選択したりする。
3	主題決定	作品の主題を決定する活動を通して、自己表現する方法の多様さに気付き、自分らしさの表現するために構想を練ることができる。【思考・判断・表現】	・自分自身について書き出したり、鏡を見たり、髪の毛や頬を触ったりして「わたし」を表す主題を作成する。 ・「部活をしている私」などの具体的な状態を主題にするのではなく、「あたたかい私」や「元気な私」などの抽象的な、思いや印象を個別の主題に設定し、表現を考える。
4	制作1	形とかげを捉えて描く活動を通して、作品の大まかな形を描くことができる。【知識・技能】	・二種類のかげに着目して、ものの形や立体感を捉えて描く。 ・全体のバランスやレイアウト、表情や顔の角度による印象をもとに主題にあった表現を見つける。
5 ～ 9 (6 本 時)	制作2～6 (制作3 本時)	自分が意図したことや込めた思いを表現するために、様々な技法の効果の違いに気付き、主題にあった技法を選んで制作することができる。【知識・技能】	・ヒントカードの様々な作例や技法を見て感じたことをもとに、自分の主題にあった技法を見つけ、制作に役立てる。 ・学んだ技法やヒントカードを生かし、主題を表現したり、肌や瞳、服などの質感の違いをつけたりできる。 ・抽象的な表現をするためのよりよい方法を見つけるため、仲間の作品を鑑賞する。
10	鑑賞「仲間の作品」	仲間の作品を鑑賞する活動を通して、仲間の作品に込めた思いなどに気付き、感じたことを表現することができる。【思考・判断・表現】	・仲間の作品から直感で思ったことと、仲間が実際に込めた思いを比べ、表現の自由さや、感性の違いを味わう。

6. 本時のねらい

自分が意図したことや込めた思いを表現するために、様々な技法の効果の違いに気付き、主題にあった技法を選んで制作することができる。【知識・技能】

7. 本時の展開（6／10）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 前時の作品と“学びの見つめ”を振り返り、本時の自身の活動を確認する。 ・今日は、柔らかい印象になる表現をしたい。 2 本時の課題を確認する。 主題に合った技法を選び、制作しよう。 3 作品を制作する。 ○本時の目標に合わせて、自分で方法を考えて制作をする。 ○本時の目標と自分のつまずきにあったヒントカードを探して、活用する。	見 前時の最後より客観的に自分の作品を見て、作品をよりよくするための方法を確認する。	○作品を裏返したり、腕で隠したりしないで全員が自分自身の作品と真剣に向き合わせる。 ○作品を近くからだけでなく、客観的に作品を捉えることができるように遠くから全体を見るように指導する。
つなぐ	前の授業では、暖かい自分の性格を表現するために、鉛筆で描いた部分をティッシュでこすり、ぼんやりとさせた。しかし、ぼんやりしすぎて全体の印象が薄くなってしまったので、今日、境界線を描き込んだ。それによって、せっかくできた暖かい印象がなくなってしまった。どうするといいか悩んでヒントカードを見ていたら、ぼかす表現のヒントカードがあったので、境界線を消しゴムで表現する技法を試してみようと思う。 ○無言鑑賞会 〈無言鑑賞会の約束〉 ・鑑賞会の時間は5分間のみ ・鑑賞するタイミングは制作活動時間であればいつでもよい。 ・見に行くかどうかは自分で決める。 ・一言も話をせず鑑賞する。	考 抽象的な主題を表現するための方法を考える。	【研究内容 2-(1)】 ロイロノートの資料箱に生徒の技能に合わせたヒントカードを用意し、必要に応じて生徒がよりよい作品にするためのヒントを得られるようにする。 ○ヒントカード ・ぼかす表現 ・クロスハッチング ・鉛筆の持ち方で変わる表現 ・筆圧で変わる表現 ・境界線の表現 ・背景の表現
見つめる	4 “学びの見つめ”を行う。 「できた・わかった」 ○主題に合わせて使用した技法について学びの見つめとしてまとめる。 (技) 今日は、背景と人物の境界線をはっきりさせようとした。はじめは鉛筆で境界線を描いていたが、主題の「あたたかさ」の表現には合わなかった。ヒントカードから消しゴムでも境界線の強調ができると知り、消しゴムを使う方法を選択して、鉛筆で描かないで境界線を表現したら、自分のイメージした感じに表現することができた。 ○“学びの見つめ”を交流する。	考 仲間の作品を見て感じたよさや美しさを自身の作品に生かすならどうするかを考える。 深 仲間の、作品を見ることで、見方を広げることができる。 深 仲間と学びの見つめを交流することで、表現の工夫などを共有することができる。	【研究内容 2-(1)】 制作途中の仲間の作品を鑑賞することで、多様な表現の工夫を見て感じることができる。 ○制作に行き詰っている生徒に、無言鑑賞会をすすめる、仲間の工夫から作品に取り入れてみようと思うものはないか探させる。 【研究内容 2-(2)】 前回の終わりの作品の写真と、本時描き込んだ作品を見比べ、今回の描き込んだ部分で表現したことを記述するよう指導する。 評価規準 表現の効果を考え、自分の主題にあった技法を選んで使っている。 【知識・技能】

第1学年2組 家庭科学学習指導案

1. 題材名：「住まいの機能と安全な住まい方」(全11時間)

2. 題材にかかわって

(1) 題材の目標

(6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。

(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。

(2) 指導観

小学校の住生活の学習では、『快適な住まい方』を核として季節に合わせた生活の大切さや住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫することについて学習してきた。中学校では、小学校での学習を土台に、『家族の生活と住空間との関わり』『住居の基本的な機能と家族の安全を考えた住まい方』について学習する。

住まいには、小学校で学習してきたように暑さ・寒さや、雨・風といった自然から生命と生活を守る働きがあることに加え、中学校では心身の安らぎと健康を維持する働きや子どもが育つ基盤としての働きがあることを学習する。こういった住まいの働きを機能させるには、家庭生活において家族の温かなつながりを感じ、安心して健康的な生活が送れるようにすること、住まいの中で行われる様々な生活行為がスムーズにできることなど、家族の誰にとっても心地よい環境を整えていく力が必要となる。そのために、生活行為と住空間の関わりを見つめ、家族それぞれのプライバシーを大切にしながらも、心地よく住空間を利用する方法を考えたり、衛生的で快適な室内環境の整え方を工夫させたい。

また、現代の住まいは、和式と洋式を組み合わせた和洋折衷の住まい方が取り入れられている。和式の住まい方の特徴であるふすまや障子といった引き違い戸の利用や、靴を脱いで畳に直接座る生活は、日本家屋の形がほぼ完成した室町時代から継承されている。日本の気候の特徴である「高温多湿の夏」を快適に住まうために、引き違い戸を多用することで風通しをよくしたり、吸湿性がよくさらりとした感触の畳を使用して気持ちよく生活できるようにしたりするなど様々な工夫がされてきた。本題材を通して、改めて和式の住まい方、伝統的な日本家屋のよさを学ばせたい。

さらに、指導要領において「幼児や高齢者の家庭内事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方を重点的に扱い、安全な住まい方の学習の充実を図ること」と示されており、指導計画において重点を置くべき内容であることが明記されている。家庭内の不慮の事故で亡くなる人の数は、交通事故の死亡者よりも多く、高齢者や乳幼児に被害が集中している。このような事実から、様々な年齢層の家族が生活する住まいの空間を安全に生活できるように整えるにはどうすればよいかを考えさせたい。また、毎年日本のどこかで豪雨による洪水、台風、地震により大きな災害が発生し、大切な命や当たり前の日常が一瞬のうちに奪われ、大変な生活を強いられている現状がある。家庭内事故も自然災害も自分や家族の命や安全に直結するものであり、少しでも被害を小さくするための対策をしっかりと考え、実践する態度を身に付けさせることが大変重要だと考える。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－（１）題材及び単位時間に身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、題材を貫く課題及び見方・考え方を働かせる視点を位置付けた題材指導計画の作成

家庭分野における見方・考え方は、『生活の営みに係る見方・考え方』と指導要領において明記されている。そして、生活の営みに係る見方・考え方を働かせるとは、生活事象を「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会」の視点で捉え、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することだと示されている。

本題材は、『Ｂ衣食住の生活』の住生活領域の学習である。我々の命や生活を守り、安らぎの場としての役割をもつ住まい。その役割を十分に機能させるために必要となる知識や技能を身に付けさせ、家族や地域の人と共によりよい生活を工夫していく力を付けさせたい。そこで、生活の営みに係る見方・考え方の視点の中の「健康・快適・安全」及び「協力・協働」に特に重点を置いて題材指導計画を作成している。

本時は、模擬家族が災害時に備えて、防災バックにどんなものを入れておく必要があるかを考える授業だが、「健康・快適・安全」の視点から、避難所での家族の生活を守るために不可欠なものを考え

させる。また、家族の「健康・快適・安全」な生活を確保する上で、「健康」に重点を置くか「快適」に重点を置くかなど、重点を置く視点の違いによって防災バックに入れるものが変わること気付かせ、模擬家族にとって最高に役立つ防災バックにするには何が必要か考えさせたい。

2-(1) 生徒の実態を把握し、個の学びに適した学習支援を工夫することで、一人一人の「できた」「わかった」という達成感や充実感につなげる指導

本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
評価規準	被災者の体験談や仲間との交流を参考にして、不自由な避難所生活であっても、自分や家族がより健康・快適・安全な生活を送るために必要なものを選んでいるか見直し、根拠を明確にして選んでいる。	健康・快適・安全を視点に不可欠なものや、家族の状況、使用頻度などをもとに、防災バックに入れるものを考えている。	提示されたもの全てが大切に思えて、指定された数を選びきることができない。
手立て	季節によって防災バックに入れるものを変える必要はないか、また、5年後も防災バックの中身は今と同じでよいか考えさせる。	被災者の体験談や仲間との交流を通して、家族にとって本当に必要なものが防災バックに入れられているか考えさせる。	防災バックを持ち運ぶことを考えると、入れられる物(量)には限界がある。避難所での生活が、自分・家族にとって少しでも健康・快適・安全なものになるように、最低限必要となるものは何かを考えさせる。 また、仲間との交流を通して参考になった意見はないか考えさせる。

本時は模擬家族である竹鼻家の防災バックの中に何を入れるか考える実践的・体験的な活動を取り入れた。いざという時に持ち運ぶことを考えると袋の中に入れられる物の数・重さには限界があり、袋の中に入れたいと考えている家族の願いも様々である。

また、災害に備えた住まいの安全対策が必要だと感じている生徒は多いが、防災バック（非常用持ち出し袋）が家庭で用意されていても、どんな物が入っているかまで把握している生徒は少ない。また、生徒の大半は避難所での生活経験がないため、非常用の持ち出し品としてどんな物が必要なのかを考えることが難しい。

そこで、避難所での生活をイメージできるように、次の物を資料として提示する。

- ①避難所生活をしている人々の様子が視覚で捉えられる写真資料
- ②避難所生活で困ったり、苦しんだりした被災者の体験談
- ③防災バックに入れる持ち出し品の候補を示した学習プリント

特に努力を要する状況(C)の生徒には、上記①の資料から多くの物を避難所に持ち運ぶことができないことに気付かせ、③の資料から家族が少しでも「快適・健康・安全」に避難所生活を送るために必要なものは何か考えさせる。また、仲間との交流を通して、仲間の考えが参考にならないかを見つめさせ、持ち出し品を選ぶ際の根拠をより明確にさせたい。

おおむね満足できる状況(B)の生徒には、家族の願いや状況の何を優先させるかや、①②の資料を参考にして防災バックの中に入れる持ち出し品が、家族にとって最高に役立つものになっているかを考えさせる。さらに、十分満足できる状況(A)の生徒には、災害が寒い季節に起きたり暑い季節に起きたりした事例や、時の経過とともに家族の状況も変化することから、防災バックに入れる持ち出し品を季節に応じて入れ替えることや、家族の状況に応じて見直す必要性を感じさせたい。

2- (2)「生活の営みに係る見方・考え方」「技術の見方・考え方」を働かせたことで高まりを実感することができる“学びの見つめ”の工夫

本時は、模擬家族の防災バックに入れる持ち出し品を個々で考え、その後、避難所生活で最高に役立つ防災バックにするためにはどうすればよいか仲間と考えを交流する。その際、仲間と意見が一致する点もあれば、そうでない点もあり、防災バックに入れる持ち出し品を考えるとときに大切にしたい視点の違いが浮き彫りになってくるはずである。それぞれの意見に耳を傾けながら、防災バックに何を入れるのが模擬家族にとって一番よいのか、仲間と交流しながら最適解を見つけさせていく。このような学習活動を通して、授業の初めに「健康・快適・安全」を視点にして考えていた持ち出し品を入れる理由と、交流後の考えに違いが生じたり、自分の考えの確かさを感じたりできると考える。

そこで、本時のまとめとして、我が家の防災バックに入れる持ち出し品を考えさせる。プリントに示した33個の持ち出し品の候補から自分の家族に必要な物とそうでない物をはっきりさせる。また、プリントに示されていない物で、家族の状況などを考えたときに、入れたいと思った物を3つまで加えてもよいこととする。そうすることで、自分の家族にとってより役立つ防災バックにするために、何を入れておくとうい意識を高めた学びの見つめを行いたい。さらに、持ち出し品を選んだり考えたりした時に大切にしたいことを記入させることで、避難所で家族の「健康・快適・安全」な生活を確保するために、どんなことを大切にしたいかが明らかとなり「こう考えた」の学びの見つめになると考える。

5. 題材指導計画「住まいの機能と安全な住まい方」(全11時間)

「貫く課題」 快適で安全な生活空間をつくり出すにはどうすればよいだろう			
時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	住まいの役割 (6) ア (ア)	気候風土、生活文化など地域の特徴に応じて住まいにどのような工夫がされているか考える活動を通して、住まいには家族の生命と生活を守ると共に、心身の安定や家族の絆を育む役割があることを理解することができる。 【知識・技能】 (健康・快適・安全、協力・協働)	・気候風土の特徴や生活文化の違いから、健康・快適・安全に暮らすための住まいの工夫を見つけている。 ・自然から命や生活を守るだけでなく、住まいが安らぎの場であり、家族と支え合って生活する場だと気付く。
2	日本の住まいと住まい方 (6) ア (ア)	日本の伝統的な住まいの特徴である「引き違い戸」「畳の床」「床に直接座る生活」のよさを考えたり調べたりする活動を通して、高温多湿の夏を快適に過ごすための先人の知恵を理解すると共に、和式の住まい方について理解を深めることができる。 【知識・技能】 (快適、生活文化の継承・創造)	・『徒然草』に出てくる「家のつくりやうは、夏をむねとすべし」という一文をもとに、提示した資料から涼しく快適に住まうための工夫を探している。 ・日本の伝統的な住まいの特徴を調べたり、交流したりする中で、先人の知恵や和式の住まい方のよさに気付く。
3	家族の生活と住空間 (6) ア (ア) (イ)	家族の生活行為と住空間の関わりを考える活動を通して、年齢や性別、家族の生活スタイルによって住空間の利用の仕方が変わることに関心し、家族の誰にとっても快適な住空間の使い方を考え、工夫することができる。 【思考・判断・表現】(健康・快適・安全)	・家族の状況の変化に応じて、住空間の利用の仕方を変えることの必要性に気付く。 ・家族の願いや年齢、生活行為を基に、家族の誰にとっても健康・快適・安全な住空間の利用の仕方を考えている。

4	住まいと健康 (6) ア (イ)	室内環境の心地よさの一因となる温度・湿度・風通しのバランスが崩れることによりダニやカビが発生し、健康被害をもたらすことに気付き、ダニやカビの発生を防ぎ、発生した場合の対処法について理解することができる。 【知識・技能】 (健康・快適)	・室内気候(温度・湿度・気流)の乱れと健康の関わりについて気付く。 ・ダニやカビの発生につながる生活行為と健康被害について考えている。 ・ダニやカビの発生を抑え、発生した場合の対処法について理解を深めている。
5	住まいの安全 (6) ア (イ)	家庭内事故死の現状を知る活動を通して、乳幼児や高齢者に被害が集中してしまう原因に気付き、住まいの危険個所と予想される事故や怪我について理解することができる。 【知識・技能】 (安全・快適)	・交通事故の死者数と家庭内事故による死者数の比較から、住まいを安全に整える必要性に気付く。 ・家庭内事故死の死因と被害が集中している年齢層に気付き、住まいの危険個所や危険につながる行動について考えている。
6	我が家の家庭内事故対策 (6) イ	家庭内事故死の要因や、住まいの危険個所と予想される事故や怪我をもとに、乳幼児や高齢者はもちろん、誰もが安全・快適に生活することができるように事故防止策について考え、工夫することができる。 【思考・判断・表現】 (安全・快適)	・乳幼児や高齢者の身体的特徴から、家庭内事故につながる場所や行動について考えている。 ・どの年齢層の家族にとっても安全、快適に生活できる住空間となるよう考えている。
7	自然災害と住まい (6) ア (イ)	災害時の状況と被災者の思いを知る活動を通して、災害に対する事前の備えや、災害時の行動の重要性に気付き、災害に対してどのような対策が必要か理解することができる。 【知識・技能】 (安全、協力・協働)	・予想される被害に対する事前の備えが大切なことに気付く。 ・防災・減災の視点から、住まいの安全対策を具体的に考えている。 ・家族や地域の人々との協力・協働という視点から、事前に確認しておきたいことなどを考えている。
8 (本時)	災害に備えて (6) イ	災害時に備えて模擬家族が持ち出す物を考える活動を通して、持ち出せる物には限界があることから、健康・快適・安全を視点に家族の状況や生活に不可欠な物、使用頻度などをもとに防災バックに入れる物を考え、工夫することができる。 【思考・判断・表現力】 (健康・快適・安全)	・避難所で家族の「健康・快適・安全」な生活を確保するために不可欠な物は何か考えている。 ・家族の願いや状況をもとに、入れる物の優先順位を考えている。 ・家族の「健康・快適・安全」について、どの視点に重点を置くかで、バックに入れる物が変わること気付く。
9	我が家の防災プロジェクト (分析) (6) ア (イ)	家庭内 DIG の活動から、地震時における自分の住まいの危険個所を明らかにして防災対策を考えるとともに、家族及び地域の人々と協力して行うべき防災対策を明らかにすることができる。 【知識・技能】 (安全、協力・協働)	・「安全」の視点から、地震が来た時に自分の家の危険個所となる場所を探している。 ・家族や地域の人との「協力・協働」という視点から、災害に備えて活動できることはないか考えている。
10	我が家の防災プロジェクト (計画) (6) イ	考えた防災対策の中から実践することを決め、「安全」「協力・協働」の視点から、計画のポイントを明確にして、『我が家の防災プロジェクト』の計画を考え、工夫することができる。 【思考・判断・表現】 (安全、協力・協働)	・「安全」「協力・協働」の視点をもとに見いだした我が家の問題から、解決すべき問題点(課題)を絞っている。 ・設定した問題点(課題)の解決策を考え、いつ、どのように実行するのかを具体的にし、計画を立てている。
11	我が家の防災プロジェクト (評価・改善) (6) イ	『我が家の防災対策プロジェクト』の実践についてまとめ、筋道立てて説明したり、発表したりすることができる。 【思考・判断・表現】 (安全、協力・協働)	・地震による災害に備えるための防災活動について、考察したことを筋道立てて説明したり、発表したりしている。 ・実践した防災活動について成果や課題を明らかにしている。

6. 本時のねらい

災害時に備えて模擬家族が持ち出す物を考える活動を通して、持ち出せる物には限界があることに気づき、健康・快適・安全を視点に、家族の状況や生活に不可欠な物、使用頻度などをもとに防災バックに入れる物を考え、工夫することができる。【思考・判断・表現】

7. 本時の展開（8/11）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 前時を振り返る。 被災者の体験談から、非常時に持ち出す物をきちんと準備しておく必要性を前の授業で確認したな。 いざというときに役立つ防災バックにするには、何が必要だろう		○前時を振り返り、防災バックを準備する必要性を確認する。
つなぐ	2 竹鼻家の防災バックに、どんな物を入れておくとよいか考える。 ある日お父さんが、「最近日本の各地で台風や洪水、地震などが起きていて、大きな被害が出ている。我が家も、そんな時に備えて防災バック（非常時の持ち出し袋）を用意しよう。家族が3日避難生活をおくるための水と食料は準備してあるが、他にどんな物を持ち出すべきかな？」と言い出しました。 さて、非常時に備えて、どんな物を準備しておくとういのだらう…。 ※別紙学習プリント参照 - 家族のそれぞれが、袋の中に入れておくといいいと考えている物が違うけど、誰の意見を大切にするといいのかな。 - 夜になって電気が使えないと不便だし、すごく不安になると思うから懐中電灯と電池は入れておいた方がいいな。	見・考被災者の体験談から、避難所の生活で家族の「健康・快適・安全」な生活を確保するために不可欠な物は何かを考えている。 見・考防災バックの中に入れられる物の数には限界があることから、家族の「健康・快適・安全」な生活の3つの視点のうち、何に重きを置いてバックに入れるべきかを考えている。 見・考家族の「健康・快適・安全」な生活のために必要となる物を、使用頻度をもとに、入れる物の優先順位を考えている。	○3日間の避難生活に必要な水と食料は準備済みであること、防災バックは家族で手分けして持ち出すため3つ用意するという条件を提示し、袋に入れる物を考えさせる。その際、家族の「健康・快適・安全」の3つの視点を大切にして考えるように押さえる。 【研究内容2-(1)】 個々のつまずきに応じて、提示資料の中から特に着目すべき資料を明らかにし、避難所生活をイメージさせ、どんな持ち出し品を選ぶとよいか考えさせる。
見つめる	3 上記2について仲間と交流し、グループの意見として考えをまとめ発表する。 - 赤ちゃんが困るから、おむつは絶対に入れておいた方がいいと思う。 - リュックに入れられる数に限界があるから、避難所の生活で必要度が高い物を選んで入れたほうがいい。 - 免許証は、いつも持ち歩いているから、袋に入れておく必要はないと思う。 4 被災者の体験から防災バックに加えるとよいとされた物を知る。 - モバイルバッテリー - 無水シャンプー - 液体菌みがき - 体を拭くシート - 紙皿、紙コップ 5 “学びの見つめ” 被災者の体験談から、実際に避難生活を体験したからこそ、非常用の持ち出し品として加えておくとうい物や、その理由を知ることにより納得できた。 家族の安全のためにも正確な情報を知りたいから、携帯電話がいつでも使えるようにモバイルバッテリー、お風呂に入れない時に、少しでも快適に過ごせるように無水シャンプーや体を拭くシートの3つを加えたい。	見・考家族の「健康・快適・安全」な生活を確保するために、どんなことを大切にして袋に入れる物を考えたか仲間と説明している。 深大切にしている視点やポイントを仲間と意見交流しながら、避難生活で最高に役立つ竹鼻家の防災バックになるように、袋の中に入れる物を決めている。 見・考自分の家の防災バックに必要な物、必要ではない物を考えて選び、加えたい持ち出し品を考えている。	○グループ交流の際、考えの足跡が残せるプリントを用意する。 【研究内容2-(2)】 本時の学びの見つめとして、我が家の防災バックに入れる物を考えさせる。持ち出し品として選んだ根拠を「健康・快適・安全」のどの視点を基にしたものか明確にさせることで「こう考えた」の学びの見つめをさせる。 評価規準 健康・快適・安全を視点に家族の状況、不可欠な物、使用頻度などから防災バックに入れる物を考え、工夫している。 【思考・判断・表現】

第2学年3・4組 保健体育科学習指導案

1. 単元名：「バレーボール」（全15時間）

2. 単元にかかわって

（1）単元の目標

- （1）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。
イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐり攻防をすること。
- （2）攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- （3）球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなど、健康・安全に気を配ること。

（2）指導観

バレーボールは、ネットをはさんで対するチームがパス技能等を用いて、ボールを拾い、つなぎ、相手に返すという競技である。また、相手コートにボールを落とすことによって得点を競い合う運動であることから、ゲームの中でボールを「どのように相手コートに落とそうか」と考え、攻防を展開することがバレーボールの楽しみの一つである。複数のメンバーで連携しながらプレイをする必要があり、集団としてのまとまりが強い運動である。このような協力の特性を活かし、生徒の技能と共に学習集団としても高めていきたい。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－（１）単元及び単位時間に身に付けさせたい資質・能力を分析し、運動の技能などを高めていく段階や運動の見方・考え方を働かせている生徒の姿を具体的に描いた単元指導計画の構想

単元の終末にはリーグ戦を行い、これまでに学習してきたことを発揮して優勝を目指させる。相手に勝ちたいという思いが、技能の向上やバレーボールを行う楽しさに繋がると考えるため、単元を通して、勝つことにこだわらせていきたい。そのために、単元の終末だけではなく、序盤にもリーグ戦を計画する。リーグ戦上位のチームは、終末のリーグでも同じように勝ちたいと思い、下位のチームは、単元を通して技能を高め、終末のリーグ戦では勝ちたいと感じさせることができると考える。そうすることで、単位時間の中で達成する課題を、より明確に意識でき、技能向上に繋がると考える。

また、第５時間目に座学として、リーグ戦で撮影した動画をもとに分析の時間を設ける。リーグ戦上位のチームにはどのような特徴があるのか、自分のチームにはどのような点を伸ばしていく必要があるのかをチームで相談させる。そうすることで、本時以降のチーム練習の際に、どのチームも同じ練習をするのではなく、チームごとに練習内容を選択したり工夫したりすると考える。全員が同じ内容を練習するのではなく、チームや個人の状況に応じた、個別最適な学習を進めていきたい。

2－（１）自他の現状を分析し、それをもとに目指す姿を明確にし、仲間とともに課題達成に向かう学習活動とその指導（個別最適な学び）

本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
評価規準	- ボールの真下に素早く移動し、サーブレシーブをセッターが取りやすい位置に、安定して上げることができる。 - レシーバーにへそを向けて囲むように動き、逸れたボールもカバーできる。	- ボールの真下に素早く移動し、サーブレシーブを安定して上げることができる。 - レシーバーにへそを向けて囲むように動くことができる。	- ボールの真下に入ることができず、サーブレシーブを上げられない。 - ボールを目で追うだけで、囲む動きができない。
手立て	仲間に対して、どのようにしたら出来るようになるか、ポイントをもとにアドバイスをさせる。	- 扇形パスや、ネット越しパス等で、返球する場所の目標を定めて、レシーブさせる。 - 名前を呼んだり、声をかけたりさせることで、仲間のレシーブをカバーさせる。	- ボールキャッチ等、ボールの真下に入る練習をさせる。 - 後ろについて体の向きを変えるなど、言葉だけでなく実際に体を動かして、動きを身に付けさせる。

- ・対人パス：取りやすい球を投げってもらうことで、パスのポイントを確認させる。
- ・移動円陣パス：移動しながら行わせることで、その場にとどまってはボールが繋がらないため、常に動いてレシーバーを囲む意識をもたせる。
- ・ネット越しパス：ネット越しで行うことで、よりゲームに近い動きで、相手コートから来るボールに対応させたり、人数を工夫することで、カバーの動きを身に付けさせたりする。
- ・ボールキャッチ：バケツやかごを持たせ、パスされたボールを入れることで、ボールの真下に素早く入る動きを身に付けさせる。
- ・扇形パス：扇形に広がってパスさせることで、自分の狙った方向にパスを出せるようにする。

2－（2）自らの技能の高まりや、考えの深まりを実感できるようにするための振り返り「学びの見つめ」の工夫

本時では、「できた・わかった」の視点で学びの見つめを行う。チーム計画会の中で、チーム課題を立てさせ、それを達成するための個人課題を立てさせる。個人課題をもとに、単元第2時間目に行った基底技能の練習の動画と比較して、本時の自分の動きを振り返らせる。単純に「〇〇ができた」と振り返らせるだけでなく、「△△を意識したことで、〇〇ができた」というように、生徒自身の中で、なぜできたのかをはっきりさせることで、自身の変容の根拠を明確にさせる。

5. 単元指導計画「バレーボール」(全 16 時間)

時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	目指す姿の確認	単元の課題や、チームの目標を確認する活動を通して、目指す姿を達成するためには、チームの仲間と連携して動くことが大切だと気づき、学習の見通しをもつことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	・バレーボールの行い方や全体でのルールを守ろうとする思いを持っている。
2	基底技能の確認	パスの基本的なポイントの確認や、チーム内でパスしあう活動を通して、ボールを繋ぐためには、素早くボールの真下に入り、囲むように動くことが大切だと気づき、パスの技能を高めることができる。【知識・技能】	・ポイントについてオーバーハンドパスやアンダーハンドパスなどの基本的な技能について理解し、仲間にアドバイスしている。
3	リーグ戦	リーグ戦を通して、丁寧に繋ぐことが大切だと気づき、勝ちにこだわってゲームができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	・仲間と認め合う声を掛け合いながら、ゲームに取り組んでいる。
4	リーグ戦	リーグ戦を通して、丁寧に繋ぐことが大切だと気づき、勝ちにこだわってゲームができる。 【思考・判断・表現】	・仲間と認め合う声を掛け合いながら、ゲームに取り組んでいる。
5	チーム分析	リーグ戦の動画を分析する活動を通して、強いチームはボールを確実に繋いでいることに気づき、自チームが勝つために、必要な要素を考えることができる。 【思考・判断・表現】	・試合の動画を、チームで決めた視点に沿って見ている。 ・気付いた点についてチームで話し合っている。
6 (本時)	サーブレシーブ	サーブレシーブを繋ぐための個別練習やチーム練習を通して、レシーバーは、できるだけ相手コートに向けてボールを上げ、チームの仲間は、レシーバーにへそを向けて囲めば良いことに気づき、3本以内で返球ができる。 【知識・技能】	・動画をポイントとなる点について注目して見ている。 ・チーム課題、個人課題を、今の自分の姿を踏まえて考えている。 ・チーム練習を課題に沿って選択することができる。 ・チームの仲間にポイントをもとにアドバイスしている。
7	2本目のトス	2本目のトスを安定させる練習を通して、3本目を強く打つためには、トスを正確に上げることの大切さに気づき、高いトスを上げることができる。【知識・技能】	・3本目を打ちやすいトスとは、どんなトスなのかを考える。

8	スパイク	セッターから手投げのトスをスパイクする活動を通して、ジャンプした頂点でボールを捉えればよいことに気付き、スパイクができる。【知識・技能】	・上手にスパイクを打つためには、どのタイミングで踏み切ってボールを打てばよいか考える。
9	3段攻撃	スパイクで返す練習を通して、得点を取るには、相手を取りにくいボールを返すことが必要だと気付き、3本目を打って返すことができる。【思考・判断・表現】	・仲間が上げたトスを見て、3本目をスパイクで返そうと考える。
10	3段攻撃	スパイクで返す練習を通して、得点を取るには、相手を取りにくいボールを返すことが必要だと気付き、3本目を打って返すことができる。【知識・技能】	・仲間が上げたトスを見て、3本目をスパイクで返そうと考える。
11	課題練習	チーム練習を通して、勝つためには、個人やチームの課題を克服するための練習をする必要性に気付き、チームの仲間で練習を選ぶことができる。【主体的に学習に取り組む態度】	・チームの課題に対して、どんな練習をすればよいか考え、取り組んでいる。
12	課題練習	チーム練習を通して、勝つためには、個人やチームの課題を克服するための練習をする必要性に気付き、チームの仲間で練習を選ぶことができる。【思考・判断・表現】	・チームの課題に対して、どんな練習をすればよいか考え、仲間に伝えている。
13	リーグ戦	学習してきたことを発揮するリーグ戦を通して、試合で勝つためには、ボールを整えて返すことが重要と気付き、3段攻撃ができる。【知識・技能】	・認め合う声を互いに掛け合いながらゲームをしている。 ・ボールを整えて、3段攻撃に繋げようと考えている。
14	リーグ戦	学習してきたことを発揮するリーグ戦を通して、試合で勝つためには、ボールを整えて返すことが重要と気付き、3段攻撃ができる。【知識・技能】	・認め合う声を互いに掛け合いながらゲームをしている。 ・ボールを整えて、3段攻撃に繋げようと考えている。
15	振り返り	学習を振り返る活動を通して、自身の技能の変容には理由があることに気付き、根拠を明確にして振り返ることができる。【思考・判断・表現】	・自分やチームの高まりについて、根拠を明確にして考える。 ・運動を通して、仲間との関わりやルールを守ることの大切さについて考える。

6. 本時のねらい

サーブレシーブを繋ぐための個別練習やチーム練習を通して、レシーバーは、前衛に向けてボールを上げ、チームの仲間は、レシーバーを囲むようにカバーすれば良いことに気付き、3本以内に返球ができる。【知識・技能】

7. 本時の展開（6／15）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助												
つかむ	1 器具準備、準備運動、基底技能練習を行う。 2 全体計画会で課題を把握する。 ○前時に共通認識した、強いチームは「ボールを落とさず繋いでいる」ことを確認する。 ・ボールを繋ぐためには、レシーバーを囲むことが必要だ。 ・ボールの真下に入ることが大事なんだ。 落とさずに繋いで、3本以内に返そう。		【研究内容 2-(1)】 基底技能の練習の時に、どのような自身の課題に合わせた練習を選ばせる。 ○レシーバーと、レシーバー以外の2つの視点で動きのポイントを分けて提示することで、ボールを繋ぐために必要な事を常に意識させる。												
つなぐ	【技術ポイント】 <table><tr><td></td><td>レシーバー</td><td>周り</td></tr><tr><td>いつ</td><td>サーブレシーブ</td><td>サーブレシーブ</td></tr><tr><td>どこへ</td><td>ボールの真下に素早く入る</td><td>レシーバーにへそを向けて囲む</td></tr><tr><td>どうする</td><td>前衛に向かって上げる</td><td>カバー</td></tr></table>		レシーバー	周り	いつ	サーブレシーブ	サーブレシーブ	どこへ	ボールの真下に素早く入る	レシーバーにへそを向けて囲む	どうする	前衛に向かって上げる	カバー		
	レシーバー	周り													
いつ	サーブレシーブ	サーブレシーブ													
どこへ	ボールの真下に素早く入る	レシーバーにへそを向けて囲む													
どうする	前衛に向かって上げる	カバー													
見つける	3 チーム練習をする。 ○チーム課題、個人課題、チーム練習の内容を確認する。 ◆対人パス ◆移動円陣パス ◆ネット越しの投げ入れ ◆扇形パス ◆ボールキャッチ ・レシーバーを囲む動きができていないから、ネット越しに投げ入れて、レシーバーを囲もう。 ・オーバーハンドパスを苦手な人が多いから、対人パスで徹底して練習しよう。 ・全体としては、移動円陣パスをしよう。○○さんと△△さんで、レシーブのポイントを確認しよう。 4 練習ゲームで練習の成果を発揮する。 ・必ずサーブレシーブを繋ぐために、どんな球もカバーするぞ。 ・チーム課題を意識して、ゲームをするぞ。 5 “学びの見つめ”を行う。(チーム反省会) ○根拠をもとに振り返りを行う。 ・レシーバーの時は、ボールの真下に素早く入ることができた。 ・チーム練習でレシーバーを囲む動きをやったから、試合でも意識することができた。 6 “学びの見つめ”を交流する。 ○チーム会の振り返りを、全体に広げ共有する。 今日のゲームでは、リーグ戦の時よりもボールをつなぐことができた。今日のチーム練習で、声を掛け合う意識で移動円陣パスをしたことで、カバーの意識がとても高まったからだと思う。レシーバーの方を向いて全員で囲めたときは、確実にサーブレシーブを繋ぐことができた。次回は、仲間が繋ぎやすい位置にレシーブを上げたい。	考 チーム練習を現状に合わせて選んだり、内容を工夫したりしている。 見 チームの仲間ポイントをもとにアドバイスしている。 深 課題に関わって、できたことを前時の自分と比較して考える。	○各グループを巡回し、レシーバーの方を向いてカバーできるように、体を直接動かしたり、囲める位置に移動させたりする。 ○ゲームの際に、「真下」や「囲め」など本時のポイントに沿った声掛けを行う。 【研究内容 2-(2)】 前時までの自分と比較したり、授業の初めの動画を見ながら比較したりすることで、できたことの根拠を明確にして振り返りをさせる。 評価規準 レシーバーを囲む動きができています。 【知識・技能】												

1 年 1 ・ 2 組 保健体育科学習指導展開案

1. 単元名 球技「バレーボール」(全 15 時間)

2. 本時のねらい

ボールを落とさずつないでいく練習やゲームを通して、落とさず返球するためには構えの姿勢をとったり、カバーリングの動きをしたりすればよいことに気づき、グループの仲間と声を掛け合いながら自陣で落とさないゲームをすることができる。

【知識・技能】

3. 本時の展開 (8/15)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助								
つかむ	1 器具準備, 準備運動, 基底技能練習を行う。 2 全体計画会で本時の課題を把握する。 ○ラリーが続いた場面の動画を提示する。 ・試合に勝つには落とさないようにしなければならない。 ・仲間がミスをしたときにカバーできるとボールを落とさず返球できるな。ラリーを続けるためには、カバーリングが必要だ。 カバーリングの動きをして、落とさず返球ができるゲームをしよう。 <table><tr><th colspan="2">技術ポイント</th></tr><tr><td>「いつ」</td><td>自陣にボールが飛んで来たら</td></tr><tr><td>「どこへ」</td><td>落下地点（ボールの底面が見える位置）</td></tr><tr><td>「どうする」</td><td>・構えの姿勢（腰を低くする, 手は胸の前） ・ボールを拾う仲間を囲むように移動する。</td></tr></table> 3 レベル別練習を行う。 ・落下地点に入るのが苦手な生徒→ボールキャッチ ・カバーリングの動きの練習→移動円陣パス 4 チーム練習と作戦会議を行う。 ・3対3：練習ゲームに向けて、ネットを挟んで練習をする。 ・作戦会議：ポジションの確認、声掛けの仕方等を話し合う。 5 練習ゲームを行う。 ○簡易ルールで行う。 （3本以上で返球してもよい、サーブは投げ入れでもよい。） ・落としたり失点してしまう。落とさずに返球するぞ。 ・うまくいかなくても、ラリーが続くように技術ポイントを意識してプレーするぞ。 5 “学びの見つめ”を行う。（グループ反省会） ○ゲームでの自分や仲間の動きを振り返る。 6 “学びの見つめ”を交流する。 ○グループで振り返ったことを全体に広げ、共有する。 今までは、準備ができていなかったため、とっさに反応できず、ボールを落としてしまうことがあったが、構えの姿勢をとったり、声を出したりすることでボールに素早く対応でき、落とさず返球することができた。また、落下地点に入る動きがだんだん分かってきた。	技術ポイント		「いつ」	自陣にボールが飛んで来たら	「どこへ」	落下地点（ボールの底面が見える位置）	「どうする」	・構えの姿勢（腰を低くする, 手は胸の前） ・ボールを拾う仲間を囲むように移動する。	見ポイントとなる点に注目して動画を見ている。 考示された技術ポイントについて確認しながら練習、ゲームを行っている。 考自分に必要な練習を選択している。 深練習ゲームの記録を見て、本時の課題や技術ポイントに対しての成果と改善点を振り返る。	○過去の練習ゲームの動画から、カバーリングの動きができると落とさず返球できるということに気付かせ、本時の課題につなげる。 【研究内容 2-(1)】 自分の苦手なところを重点的に練習できるように、練習内容を選択させる。 【研究内容 2-(1)】 落下地点に入るのが苦手な生徒には、入る位置や動くタイミングを個別で指導する。 【研究内容 2-(2)】 練習ゲームの動画を撮影し、提示された技術ポイントを意識してプレーできているか確認させる。 評価規準 カバーリングの動きができている。 【知識・技能】
技術ポイント											
「いつ」	自陣にボールが飛んで来たら										
「どこへ」	落下地点（ボールの底面が見える位置）										
「どうする」	・構えの姿勢（腰を低くする, 手は胸の前） ・ボールを拾う仲間を囲むように移動する。										
つなぐ											
見つめる											

3年3・5組 保健体育科学習指導展開案

1. 単元名 球技「バレーボール」(全14時間)

2. 本時のねらい

「分析する視点」を明確にした動きを分析する活動を通して、勝つチームは確実にボールを繋いだり、相手コートの空いているところを狙って返したりしていることなどに気付
き、チームが勝つために必要なことを考えることができる。【思考・判断・表現】

3. 本時の展開 (5/14)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つ か む	1 リーグ戦を終えての感想交流をする。 ・全部勝つことができてうれしかった。 ・お見合いをしてボールを落とすことが多かった。 ・声あまり出ていなかった。 ○バレーボールの技術ポイントを確認する。	見 リーグ戦の様相を思い出し、振り返ることができている。	○分析する必然をもたせるために、動きの改善点を抽象的ではなく、具体的に考えることの良さを伝える。 ○バレーボールの技術ポイントを押さえる。
	2 本時の課題を確認する。 リーグ戦の動画を分析し、勝つために必要なことを考えよう。 ○分析するために必要な視点を確認する。 ①サーブレシーブの場面 ②1本目の場面(チャンスボール) ③1本目の場面(強打) ④3本目の場面 ⑤セッターの動き 等 ○分析の仕方を確認する。 ①分析する視点を分担する。 ②自チームの動画を見て分析する。 ③他チーム(勝っているチーム)の動画を分析する。	考 どんな視点で分析するか考えている。	【研究内容2-(1)】 動画を分析する視点を明確にして、分析の方法を具体的に提示する。 【研究内容2-(1)】 自分たちのチームや勝っているチームの動画を分析し、今の自分や自分たちのチームに必要なことを考え、今後の技能向上のための、練習方法の改善につなげる。
つ な ぐ	3 動きの分析を行う。(個人) ○タブレットを活用し、分析する視点を分担し、分析する。 ・サーブレシーブがうまくいっていないな。 ・カバーリングがうまくできていないな。 ・スパイクが3回に2回決まっている。 ・1本目が乱れたときにセッターがなんとか上げている。	見 分析する視点をもとに、動画を見て、分析できている。	○各グループを巡視し、視点がぶれていないか見届ける。
	4 グループで交流を行う。 ○分析した内容を交流し、勝つために必要なことを確認する。 ・勝つチームはボールを落とさないで相手コートに返しているな。 ・1本目を確実にセッターに返すことが必要だ。 ・相手コートの空いているところへ打つことが大切だ。 ・カバーリングをうまくするために、守備隊形などを考えよう ・自分たちのチームをカバーリングが甘いから、次回移動円陣パスの練習をしよう。 ・自分たちのチームは、サーブレシーブがうまくいかないから、次回サーブレシーブの練習をしよう。 ・私は、まだオーバーが苦手だからオーバーの練習をしよう。 ・〇〇さんは、まだアンダーが安定しないから、私と一緒に練習しよう。	考 分析した内容を交流し、自分たちのチームや自分、仲間に必要な動きを考えることができる。	【研究内容2-(2)】 本時分析したことや交流したことをもとに、次時から何を目指して、何を意識して、どんな練習をしていったら良いのか具体的に振り返るよう指導する。 また、振り返りの内容を一部紹介し、次時への意欲化を図る。
見 つ め る	5 “学びの見つめ”を行う。 動画の分析を行うことで、自分たちはボールをうまく繋げていないことが分かった。ボールをうまく繋ぐためには、カバーリングの動きや、1本目が大切なので、次回は移動円陣パスを行いたいと思います。また、私は、まだアンダーが苦手なので、授業の前に〇〇さんとアンダーの練習をしたいです。	深 分析し、交流した内容をもとに、次回からの授業で自分たちのチームや自分、仲間が何を指して、何を意識して、どんな練習をしていったら良いか振り返っている。	評価規準 リーグ戦の動画の分析を行い、チームが勝つために必要なことを考えている。 【思考・判断・表現】

第2学年6組 英語科学習指導案

1. 単元名 : New Horizon Book 2 Unit 5 「Universal Design」 (全 10 時間)

2. 単元にかかわって

(1) 単元の目標

思考力, 判断力, 表現力等 (話すこと[発表])

ウ ユニバーサルデザインに関して聞いたり読んだりしたことについて, 考えたことや感じたこと, その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

(2) 指導観

「ユニバーサルデザイン」とは, 障害の有無, 年齢, 性別, 人種等にかかわらず, 誰もが利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方である。その対象は製品や建物, 空間だけでなく, 情報やサービス, 思いやりの心も含めた考え方を指している。本単元はユニバーサルデザインが施された製品や身近な施設での採用例, ユニバーサルデザインの生みの親であるロナルド・メイスについて扱っている。これらを知ることを通して, ユニバーサルデザインの考え方への理解を深め, あらゆる人の立場に立ち, すべての人にとって暮らしやすい社会について考えさせたい。また, 本単元の学習を通して, 人は老い, 病気や事故で障害をもつ可能性はゼロではないことに気付き, その考え方を自分が生きる社会や自分自身の生き方に照らし合わせるきっかけになるとよいと考えた。

本単元で学習する文法事項には, 「疑問詞+不定詞 (how to～)」「主語+be 動詞+形容詞+that～ (I am sure that～)」がある。終末に向けたユニバーサルデザインの説明において, 使い方や自分の感想を述べる際に活用させたい。具体的場面を想像させながら, 既習事項である接続詞 when や if, ユニバーサルデザインによってできることについて助動詞 can を用いて表現することが有効であると考えた。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1ー(1) 単元および単位時間に身に付けさせる資質・能力を明確にもち、見方・考え方を働かせている生徒の姿を明確にした指導計画の作成

(1) 見方・考え方を働かせる導入の工夫

この単元で気付かせたい見方・考え方の一つが、ユニバーサルデザインは日常の中に散りばめられており、誰にとっても住みやすい街にするように考えられているということである。この見方・考え方を働かせるために、街づくりの根幹である羽島市役所で取り入れられているユニバーサルデザインを調べ、目的や使い方、誰にとって使いやすいデザインになっているのか、などについて追究する。この活動のきっかけは、羽島市役所から「羽島市を訪れる外国人に対してユニバーサルデザインを紹介してほしい」という依頼があったという場面を想定して、生徒の追究への動機付けを図る。羽島市在住の外国人が安心して羽島市役所に足が運べるようになるという目的を明確にもたせることで、聞き手が知りたい内容は何かを考え続ける生徒の姿を生み出すことができると考えた。

(2) 帯活動「What is it?」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することである。本単元では、他者との関わりに着目し、相手に理解してもらうために何をどんな表現で伝えるのがよいかを考えさせたい。そのため、帯活動「What is it?」では、ペアまたはグループで提示された写真を見た人が、見ていない人に対して、どんな写真について話しているかを当てる活動を行う。相手に理解してもらうために必要な情報は何かを考え、他者の目線に立って考えることの大切さに気付く、相手の立場や状況を考えながら説明する力を養いたい。

(3) テーマ別学習の位置付け

テーマ	A 多目的トイレ Accessible toilet	B 案内板 Guide board	C エレベーター Elevator
誰にとっての使いやすさが考えられているか	・車いすの人 ・子連れの人 ・人工腸の人 ・視覚障がいの人 ・お年寄りの人	・文字の読めない子ども ・日本語が分からない外国人	・目が見えない人 ・車いすの人 ・疲れている人 ・災害時の備え

本学級は机列は大きく3つに10人程度で分かれており、上記の3つのユニバーサルデザインを1つずつ割り振り、各自そのテーマについて説明する活動を行う。同じテーマであっても誰の視点に立って考えるかなどの見方・考え方は様々に生まれると思われる。そのため、本時のローテーションペア交流や指導で、今までの自分になかった視点を仲間や教師から学ぶことで、見方・考え方が広がり終末の活動における発表の内容が深まると考えられる。

そして、単元の終末ではA～Cそれぞれのテーマを説明する生徒で構成されたグループを意図的に組んで発表する。自分が調べていないユニバーサルデザインの発表を聞くことで、ユニバーサルデザインについての理解が深まり、いろいろな人の視点でユニバーサルデザインを捉えることができる。また、自分の説明が相手に伝わる喜びを味わう経験になると考える。

2－（１）個別最適な学びを実現するための手立てを明確にした指導

（１）本時の評価規準とその手立て

	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
評価規準	外国人が安心して市役所を使えるように, 知りたいと思われる使い方や目的, 自分の感想などの内容を様々な立場の人の視点から推敲できる。	外国人が安心して市役所を使えるように, 知りたいと思われる使い方や目的などの内容を様々な立場の人の視点から推敲できる。	ユニバーサルデザインについての説明を文脈や相手意識なく話している。
手立て	話す順番や疑問の投げかけなど, 聞き手を意識した工夫や表現を紹介する。	- 様々な状況にある外国人の視点で考えられていない生徒に具体的な状況を提示する。 - 辞書や教科書, 表現のヒント集, 仲間の発表から学んだ表現などを用いて, 発表を推敲できるようにする。	- 録音した仲間の発表をくり返し聞き, 自分の表現に取り入れるよう促す。 - 教科書, 表現のヒント集などの表現を用いて単語を文章に組み込めるようにする。

（２）具体的な手立て

①交流での録音とメモの活用

交流中に生徒は仲間の発表内容を聞くことに注目し, コメントを伝えられるようにする。交流前にはコメントの視点を伝え, 内容や使う表現に関して, 改善のポイントに気付けるようにする。「～ということがよく分かった」「～ということに加えて□□ということも伝えたらどうか」「～という場面ではどうか」「～な人についてはどうか」などのアドバイスを伝え合い, メモの内容を充実させる。また, 発表者側から, 「～と言いたいんだけどどう表現できるか」など助言を求める時間にすることも考えられる。交流中の発表は録音し, 交流グループのメンバーで録音データを共有し, 推敲の時間に仲間が使っていた表現を聞き直して自分に取り入れることもできるようにする。

②提示資料の工夫

表現のヒント集をロイロノートで配付し, 伝えたい内容はあるが上手く表現できない生徒や使える単語は分かっているが英文にできない生徒が, 表現のヒント集の英文の型に表現したい単語等を当てはめるような形で英文で表現できるようにする。

内容を深めるために誰にとって使いやすいように考えられているか等の視点を黒板に可視化して示すことで, 推敲の時に視点を確認しながら内容を深めることができるようにする。

③ウェブ上の辞書

ウェブ上の辞書では単語の意味だけでなく音声の確認もできるため, 分からない単語がある時は意味と共に発音も聞くように指導する。情報を正確に伝えるため, 聞き手に正しく伝わる発音を確認させる。

2-(2) 生徒が見方・考え方を働かせて学習した自己の変容や成長を実感できるようにするための振り返り“学びの見つめ”の工夫

学びの見つめでは、ペア交流の最初の発表と、推敲後の音声を自分自身で比べて、発表内容において使い方や目的、誰のためのユニバーサルデザインなのかなどの見方・考え方の深まりにより、外国人に使いやすさが伝わる説明になったかという点で振り返りをさせたい。聞き比べる時は、より相手に伝わりやすくするために、新しく加えたり修正した内容や表現は何かに注目させる。

また、ユニバーサルデザインについて使い方や目的などを表現していくために、毎時の終末に“内容の見つめ”と“表現の見つめ”を交互に位置付ける。“内容の見つめ”では、ユニバーサルデザインの使い方や目的など伝えたい内容を考える。“表現の見つめ”では、教科書等の表現を取り入れて伝えたい内容の表現の仕方を考える。この2つの見つめを交互に行うことで、内容と表現の両方が変容し、見方・考え方を深められると考えた。

5. 単元指導計画「Universal Design」(全10時間)

Point of View : What's the meaning of “universal design”?

時	学習内容	ねらい	見方・考え方を働かせている姿	“学びの見つめ”
1	導入	ユニバーサルデザインについての導入を通して、単元への興味関心を高め、本単元でつきたい力を理解し単元の見通しをもつことができる。	・身の回りのユニバーサルデザインについて、誰にとって、どんな状況において必要とされているのかを考える。	Accessible toilet Pictogram Elevator
2	Scene 1	英語で書かれた広告を読んで内容を理解する活動を通して、「疑問詞+不定詞」の意味や用法を理解し、物の特徴や使い方について、どのようにしたらよいかを説明することができる。	・物の使い方等についての表現を理解した上で、英語で書かれた広告を読んで内容を理解する。	handrail, changing table pictures wide space There is~/ It has~
3	Scene 2	英語の対話文の内容を理解する活動を通して、「主語+動詞+(人)+疑問詞+不定詞」の意味や用法を理解し、ユニバーサルデザインの使い方等を誰かに説明したりするために、特徴や使い方について情報を捉えたり伝え合ったりすることができる。	・物の使い方等を英語で理解したり説明したりするために、新出表現の意味や用法を知り、英語の対話文の内容を理解する。	Thanks to people can sit and stand easily. Thanks to people can know where to go. Thanks to wheelchair people can use easily. Thanks to ~, ~can ~ easily.
4	Mini Activity	自分が知りたい情報について相手にたずねる活動を通して、既習表現を使って使い方等について英語で伝え合うことができる。	・相手に使い方等を理解してもらうためにどんなことをどんな表現を使って伝えればよいか考える。	wheelchair, people with a baby, stoma foreign people, children, blind people wheelchair, sick, injured

5	Read and Think1	ユニバーサルデザインについて発表している英文を読んで理解する活動を通して、「主語+be動詞+形容詞+that」の意味や用法を理解して、自分のことについて表現ができる。	・「きっと…だ」「…して嬉しい」といった感情を心理を表すための表現を理解する。	Thanks to ~, ~ can ~.
6	Read and Think1	ユニバーサルデザインについて発表している英文を読んで、誰にとっても使いやすいの中に自分も含まれることに気づき、自分の発表に活かせる表現を見付けることができる。	・聞き手の立場にたつてより安心が伝わる発表にするにはどうしたらよいか考える。	have many bags easy to see where to go tired
7	Read and Think2	ロナルド・メイスについて書かれた英文を読む活動を通して、ユニバーサルデザインに対する自分の考えを深めることができる。	・ユニバーサルデザインについて既習知識を用いて英文の要点を捉え、いろんな人の立場に立ってユニバーサルデザインについて考える。	It's good when I ~/if I ~.
8	Read and Think 2	ユニバーサルデザインについて学んだことをもとに、ユニバーサルデザインについての自分の考えを伝え合うことができる。	・ユニバーサルデザインについて書かれた英文から学んだことを元に、自分の考えを表現する。	I hope that~. I am sure that ~. I think that ~.
9	発表内容の推敲	羽島市役所の使いやすさを伝える活動を通して、様々な視点から使い方や目的などを説明する必要性に気づき、具体的な場面を想定して内容を推敲することができる。	・仲間からもらった意見や仲間の発表を聞いて気付いたことを自分の発表にどのように取り入れるかについて考える。	学びの見つめ 最初の録音と比べて、使う人の視点を増やすことでより相手に伝わる説明になった。
10	発表	羽島市役所のユニバーサルデザインについて発表する活動を通して、ユニバーサルデザインについての理解を深めることができる。	・羽島市役所のユニバーサルデザインについての発表を聞いて、いろいろな立場の人にとって使いやすく考えられていることに気付く。	学びの見つめ “案内板”の発表を聞いて、自分にとっても使いやすくなっていることが分かった。

6. 本時のねらい

羽島市役所のユニバーサルデザインについて伝える活動を通して、使いやすさという視点からどんな場面で誰にとって使いやすいかなどを説明する必要性に気付き、聞き手が知りたいことを意識しながら内容を推敲することができる。【思考・判断・表現】

7. 本時の展開（9／10）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 あいさつ・帯活動「What is it?」 ・お題を相手に当ててもらうために、何を伝えたらいいかな。 2 課題提示 外国人に羽島市役所の使いやすさを伝えよう。	見・考聞き手にお題を当ててもらうために必要な情報は何かを考えている。	○英単語1つでも伝えられる内容があるようなお題を準備する。
つなぐ	3 発表相手の具体的想像 ・年齢や日本語の習熟度、子育て中の親や妊婦など色々な状況の外国人がいる。 4 ローテーションペア練習（ペア×4回程度）と全体指導 ○最初のペア練習の時に録音する。 <メモ> -Guide Board -Japanese, English, Chinese -color and number -help a lot <話す内容> Hi, I'll talk about "guide board" in Hashima City Hall. It has Japanese, English and Chinese. Different offices have different counter colors and numbers. It's easy to find. I think it helps a lot. ○発表の内容における仲間の良さを知り、内容を深める。 <内容の良さ> ・誰にとって使いやすいかの視点 ・どんな場面で使いやすいかの視点 ・なぜ使いやすいかの視点 ・もしこのデザインがなかったらどうなるかの視点	見・考いろんな状況の外国人がいることに気付いている。 見・考相手の状況を考えて伝えるべき内容が何かを考えている。	○具体的に外国人の生活や様子をイメージするために、年齢や日本語の理解度、子育ての親や妊婦など様々な状況の外国人がいることに気付かせる。
見つめる	5 内容と表現の推敲（個人） ○他の生徒の発表や全体指導から気付いたことを取り入れる。 <メモ> -Guide Board -Japanese, English, Chinese -<u>understand easily</u> -color and number -<u>children can find</u> -<u>If there's no guide board, very difficult</u> -help a lot <話す内容> Hi, I'll talk about "guide board" in Hashima City Hall. It has Japanese, English and Chinese. <u>So foreign people can also understand easily.</u> Different offices have different counter colors and numbers. <u>So children can also find easily.</u> <u>If there is no guide board, it's very difficult to find where to go.</u> I think it helps a lot. 6 ペア交流と録音 ○一番最初に練習したペアと再度発表を交流し、コメントを伝え合う。 7 自分のタブレットに発表を録音し、最初の録音と比べ、“学びの見つめ”を行い、全体交流をする。 (思) 最初の録音と比べて、具体的な場面やもしこのユニバーサルデザインがなかったらという視点を増やすことでより相手に使いやすさが伝わる説明になった。	見・考仲間からの意見や仲間と自分の発表の違いから、自分の発表の改善点に気付く。 深より相手に伝わる内容や表現を考えている。 見・考聞き手の立場に立って発表内容を再構築している。 見・考聞き手の立場に立って発表内容を聞き、変化に気付く。	○様々な状況の外国人目線で考えられていない生徒に具体的な状況にある外国人の視点を提示して考えを促す。 ○内容を深めるための考える視点を可視化して示し、新しい視点を取り入れながら話すよう指導する。 【研究内容 2-(1)】 表現のヒント集や考える視点と使えるような表現を個々の必要に応じて活用させる。 【研究内容 2-(2)】 推敲前後の発表を比べて、取り入れた表現や深まった内容を振り返る。 評価規準 外国人が安心して市役所を使えるように具体的な場面を想定して様々な視点から使い方や目的などの内容を推敲している。 【思考・判断・表現】

英語科学習指導展開案

1. 単元名 A Surprise Party (全9時間)

2. 本時のねらい

電話で、相手を誘ったり、応えたりするペアでのやりとりを通して、「be 動詞 + …ing」を使って今の自分の状況を伝え、仲間の誘いに応じたり、断ったりすることができる。【思考・判断・表現】

3. 本時の展開 (4/9)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助
つかむ	1 あいさつ・3 questions 2 warm-up (Who am I クイズ) ○イラストの中の一になりきり、Who am I クイズを行う。 Step2 A: I'm playing tennis. I'm wearing a blue T-shirt. Who am I? B: Are you ~ ? 3 課題提示をする。 電話で、仲間からの誘いに対して、今していることを伝え、誘いに応じたり、断ったりしよう。 4 ペアになり、相手をさそったり、それに応えたりするやりとりを行う。	見・考 天気・曜日・日にちを正しく伝えることができる。 見・考 相手に伝わるような内容を考えている。ペアの意見を聞いて、言葉に合った、イラストを考え質問している。	○主語と be 動詞の関係を正しく伝えるようにさせる。 ○デモンストレーションを見せ、活動内容の確認をする。
つなぐ	A: Hello. This is ~. B: Hello. This is ~. A: I'm playing games. Let's play games. B: Yes! 応じる A: Hello. This is ~. B: Hello. This is ~. A: I'm playing games. Let's play games. B: No, I am studying 断る 5 中間交流をする。 ○いくつかのお手本となるペアを紹介する。相手に伝わりやすい、誘い方、応じ方や断り方をしているかの視点で確認する。 ・「want to」を使ってしたいことを伝えよう。 ・「What are you doing?」に対して、「be 動詞 + …ing」でしていることを伝えよう。 ・「Can you come ~ ?」を使って誘おう。 ・「I'm sorry」を使って断ろう。 6 再度、ペアで交流をする。	見・考 相手を誘う内容を考えている。また、質問に応じた内容を伝えている。 深 今していることだけでなく、他に文を長く続ける為の表現を仲間の姿や教科書から考えている。 見・考 中間交流で見付けた表現をやりとりの中に取り入れている。	【研究内容 2-(1)】 イラストと単語が組み合わさったヒント集を ICT を通して送り、「動詞 + …ing」の形にしたり、表現に取り入れられたりできるようにする。 【研究内容 2-(1)】 スケジュールを記せるワークシートを用い、やりとりを行うようにする。ワークシートの裏に使えるような表現をメモし、活用させる。 ○状況に応じた内容を考えて、やりとりをさせる。
見つける	A: Hello. This is ~. B: Hello. This is ~. A: I'm playing games. <u>What are you doing now?</u> B: <u>I am watching TV.</u> A: <u>I want to play games with you.</u> B: Ok! Let's play games! A: <u>Can you come to my house?</u> B: Sure. 応じる A: Hello. This is ~. B: Hello. This is ~. A: I'm playing games. <u>What are you doing now?</u> B: <u>I am studying English.</u> A: <u>I want to play games with you.</u> B: <u>I'm sorry. I can't play game.</u> A: OK. See you. B: See you. 断る 7 “学びの見つめ”を行う。 ・自分がしていることだけでなく、一言加えることができた。 ・相手の誘いに対して、自分のしていることを伝え断ったり、したいことを伝えたりすることができた。	見・考 本時の授業から自分ができるようになったことを振り返っている。	【研究内容 2-(2)】 場面や状況に合わせたやりとりができたか振り返る。 「be 動詞 + …ing」を表現できているか振り返る。 評価規準 電話で、相手を誘ったり、応えたりするペアでのやりとりを通して「be 動詞 + …ing」を使って、今の自分の状況を伝え、仲間の誘いに応じたり、断ったりすることができる。 【思考・判断・表現】

A学級2組 自立活動学習指導案

1. 単元名：「プレゼントをしよう」(全15時間)

2. 単元にかかわって

(1) 単元の目標

【3 人間関係の形成】

- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
 - ・自分が編む長さを決めることができる。
 - ・うまくいかなかったときや集中力が切れたときでも、クールダウンや休憩の時間をとることで気持ちを切り替えて活動することができる。

【5 身体の動き】

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
 - ・座位を保ち、姿勢を保持することができる。
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
 - ・ちょうちょう結びや片結びなど、日常生活で使う結び方ができる。
 - ・複数の紐を編み込む手順を理解し、ミサンガを編むことができる。

【6 コミュニケーション】

- (2) 言語の受容と表出に関すること。
 - ・自分が頑張ったことや気が付いたことを話すことができる。
 - ・正しい言葉遣いで、相手にインタビューすることができる。
 - ・相手の言葉を正しく理解し、メモを取ることができる。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
 - ・インタビューする内容や順番を書いた用紙、もしくはタブレットを用いてインタビューすることができる。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。
 - ・インタビューする相手の状況を考え、適切なタイミングで尋ねることができる。
 - ・場に応じた声の大きさや、話す速度で話をするすることができる。

(2) 指導観

人間関係の形成では、自分で決める時間を設けることで、自分の状態を理解し、どのくらいの量の作業ができるのか、どのくらい休憩すればよいかなど行動を調整する力を養いたい。

身体の動きでは、日常生活でもよく使われる紐を用いることで、指先を使った作業能力の確認や向上を目指す。また、正しい姿勢を保持したまま、作業をし続ける力をつけたい。

コミュニケーションでは、正しい言葉遣いを知る時間を設けたり、実際に話す練習をする時間を設けたりすることで、自分よりも目上の人に対する適切な話し方の力を養いたい。

3. 生徒の実態

4. 研究にかかわって

1－（１）生徒一人一人の実態を把握し、身に付けさせたい力と興味関心から単元内容を工夫した、個に合った適切な課題・評価規準を踏まえた単元計画の作成

本単元では、見方・考え方を働かせるための支援を以下のように設定した。

- ①自分の状態を理解し、行動を調整できるように、その時間に編むことのできる量を考える時間を設ける。(ア・イ)
- ②完成のイメージをもったり、仕上がり具合を自分で確認したりするために、インターネットで調べる時間を設ける。また、完成するまでの見通しがもてるように、実際に作る長さの写真や紙を用意する。(イ・ウ・エ)
- ③自分の頑張りや仕上がり具合を比較できるように、毎時間 iPad のカメラ機能で記録し、ロイロノートにて振り返りを行う。(エ・オ)
- ④「プレゼント」ということを踏まえ、より良い物を作れるように、仲間と交流する時間や、自分の記録を見る時間を設ける。(ウ・カ)

2－（１）「個別の目標」に対して、何ができれば目標を達成した姿といえるかを考え、つまずきを予想した「個別の評価規準」「手立て」の設定

本時の評価規準とその手立てを以下のように設定した。

生徒	評価規準	手立て
A	手順を確認しながら自分のペースで編んでいる。 前時と本時を比較し、頑張れたことや、次に気を付けることを考えている。	無理なく進められるように、前時の進み具合から本時どのくらい進められそうかの言葉がけを行う。
B	ミサンガを編むペースや仕上がり具合を考えて編んでいる。 前時と本時を比較し、自分ができたことを入力している。	仕上がりを考えずに速く編んでいるときは、「誰かにあげるもの」ということを再確認する。 具体的に振り返りができるように、「特にどこを」など言葉がけをする。
C	自分で編む長さを決め、途中で投げ出さずに編んでいる。 自分ができたことや気が付いたことを入力しようとしている。	活動時間と休憩時間を相談しながら編む長さを決める。早く終わらせるためにいい加減な編み方にならないように、何のために編むのか確認する。
D	自分の席で落ち着いて取り組み、正しい手順で編んでいる。 前時と本時を比較し、自分が気を付けたことや次に気を付けたいことを考えようとしている。	落ち着いて編むことができていたときは随時ほめる。 正しい手順で編めるように、手順表の提示や、番号を書いたカードを紐の先端に貼る。 前時と本時の比較ができるように、振り返りの言葉を見直すように言葉をかける。
E	無理なく取り組める長さを自分で決め、休憩をはさみながらもやりきろうとしている。 自分が頑張ったことやできたことを入力している。	集中力が切れてきたときは、休憩するかどうか本人に決めさせる。 落ち着いて振り返りができるように、振り返りの時間を十分に設ける。
F	活動に対して興味をもち、自分がしたいこと、できることを伝えようとする。	意思表示が定着するように、自分の気持ちを伝えられたときは価値付ける。

G	無理なく取り組める長さを決め、取り組もうとしている。 できた分をカメラで記録している。	活動時間と休憩時間を相談しながら編む長さを決める。目標を達成したときは、やりきることができたことを大いにほめる。作業時間に余裕がある場合は本人と相談し、さらに編むか、早めに振り返りをするかを決める。
H	仕上がりの良さを考えて編み方を調べたり、編んだ段を見直したりしている。 前時と本時の仕上がり进行比较し、次に気を付けたいことを考えている。	見本となる資料(写真や動画)と、本人が編んだものを比較する時間を設け、どうしたらよりよくなるか考えたり、調べたりする時間を設ける。

2-(2) ICTを用いて、毎時間振り返りをしたり、仲間と交流したりすることで、個の成長を実感できるようにするための“学びの見つめ”の工夫

本時の学びの見つめでは、前時と本時の進み具合を比較する時間や、仲間に対して発表する時間を設けることで、自分の成長を実感したり、仲間の良さを取り入れたりし、活動へのモチベーションを保つことにつなげたい。

書くことが苦手な生徒や活動に対して消極的な生徒も、自分の成果を可視化し、自分の頑張りを実感できるよう、毎時間カメラで記録し、iPadでの入力による振り返りを行う。

自分の頑張りを相手に伝える時間を設けることで、自分ができたことをより実感し、達成感や自己肯定感が上がるようにする。

5. 単元指導計画「プレゼントをしよう」(全15時間)

単元時間ごとの自立活動における重点項目は以下の通りに記載した。

単位時間ごとの 重点項目	内容
3-(3)	自己の理解と行動の調整に関すること。
5-(1)	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
5-(5)	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
6-(2)	言語の受容と表出に関すること。
6-(4)	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
6-(5)	状況に応じたコミュニケーションに関すること。

また、単位時間ごとの役割は以下の通りである。

ア	各教科の「目標」「見方・考え方」の確認
イ	適切な目標の設定
ウ	興味関心をもつ工夫
エ	考えたくなる工夫
オ	振り返りの工夫
カ	個に対する支援・配慮

単元指導計画

時	学習内容	重点項目	単位時間ごとの役割	ねらい	見方・考え方を働かせている姿
1	日常生活で使う結び方	5- (5)	アイカ	紐を結んだり、縛ったりする活動を通して、日常生活で使われている紐の結び方に気付き、一人で結んだり縛ったりすることができる。	・ちょうちょう結びやかた結びを使う場面を想定している。 ・実際に結んだり、早く結んだりしている。
2	インタビュー	6- (4)	ウエ	相手を想定する活動を通して、好みの色を知るためには聞きに行くことが必要だということに気付き、どうするとよいのか考えることができる。	・相手の好みの色を知るためにどうしたらいいか考えている。 ・インタビューの方法について考えている。
3	適切な言葉遣い	6- (2) 6- (4) 6- (5)	ア	何を知れるとよいのか、どう聞くといふのかを考える活動を通して、適切な言葉遣いがあることに気付き、インタビュー内容について考えることができる。	・何を聞くといふのか、必要な項目について考えている。 ・相手の立場や時と場を考える必要があることを考えている。
4・5	編み方調べ	5- (1) 5- (5)	ウエ	様々なミサンガの編み方を調べ、実際に編む活動を通して、自分が作れそうな編み方に気付き、プレゼントするミサンガの編み方を決めることができる。	・ミサンガの編み方を調べ、自分にできそうな編み方を選ぼうとしている。 ・迷ったときに、編んだものを比較したり、他者に聞いたりして選ぼうとしている。
6	デザイン決め	5- (1)	アウエ	贈る相手の好みの色と実際に色を組み合わせる活動を通して、ミサンガの完成イメージをもつことができる。	・自分にできそうな編み方と、相手の色の好みの組み合わせを試し、デザインを考えようとしている。
7	ミサンガ作り	3- (3) 5- (1) 5- (5) 6- (2)	イエオカ	実際にミサンガを編む活動を通して、自分の編み方の特徴に気付き、編む力加減や、ペースを考えることができる。	・編み方を確かめながら編んでいる。 ・集中力が途切れても、休憩をはさみながら自分で気持ちを切り替えている。
8 (本時)	ミサンガ作り	3- (3) 5- (1) 5- (5) 6- (2)	イエオカ	前時編んだ長さ、完成の長さを比較する活動を通して、本時編む目標の長さを決め、力加減を意識して編むことができる。	・集中して編むことができる長さを考えている。 ・前時の出来上がり、本時の出来上がり、見本などを比較し、仕上りを考えようとしている。
9 、 13	ミサンガ作り	3- (3) 5- (1) 5- (5) 6- (2)	イエオカ	実際にミサンガを編む活動を通して、編み方のコツに気付き、力加減や、作業スピード、仕上がり具合を考えることができる。	・手順を確かめながら編んでいる。 ・集中力が途切れても、休憩をはさみながら自分で気持ちを切り替えている。

14	メッセージカード ラッピング	5- (5) 6- (5)	ウ カ	メッセージカードを書き、ラッピングする活動を通して、どのような言葉を書くと相手に喜んでもらえるかを考えることができる。	・相手に喜んでもらえる言葉や文字を考えたり、調べたりしている。 ・「プレゼント」ということを考え、丁寧な字で書こうとしている。
15	単元の振り返り	6- (2) 6- (5)	オ	実際にプレゼントを渡す活動を通して、相手に喜んでもらう喜びを知り、振り返りを書くことができる。	・これまでの自分の頑張りを振り返っている。

自立活動の6つの区分・27項目

1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 (5) 健康状態の維持・改善に関すること。
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。 (4) 集団への参加の基礎に関すること。
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関すること。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。 (4) 身体の移動能力に関すること。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2) 言語の受容と表出に関すること。 (3) 言語の形成と活用に関すること。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

6. 本時のねらい

- ・実際にミサンガを編む活動を通して、必要な場合はクールダウンや休憩時間を設けながら、自分が決めた目標の長さを達成することができる。【3-(3)・5-(1)】
- ・仲間との交流を通して、自分の頑張りを改めて実感したり、次回編むときに気を付けたいことを考えたりすることができる。【5-(5)・6-(2)】

7. 本時の展開 (8/15)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助 (B・C・E・H)	指導・援助 (D・G)	指導・援助 (A・F)
つかむ	1 前時の振り返りをする。 ・前時、自分が編んだ長さと仕上がりが具合を確認する。 ・本時、編む長さを決め、気を付けることを考える。	見 前時、自分が編んだ量から、本時自分が無理なく、集中して編むことができる長さを決めようとしている。	○どこまで編めばいいのかわの見通しをもち、完成の長さと、自分の進み具合を比較できるように、見本の写真や図を用意する。		
つなぐ	2 本時の課題を確認する。 力加減を意識して自分で決めた目標の長さまで編もう。		○目標の長さを決めることが難しい場合は個別に言葉をかける。	【研究内容 2-(1)】 ・本時どこまで編めるかを一緒に考える。 ・刺繍糸が難しい生徒には毛糸を用意する。	【研究内容 2-(1)】 ・前時までに刺繍糸か毛糸か決めさせる。
	3 ミサンガを編む。 ・自分が決めた長さまで編む。 ・集めた資料や手順を確認する。 ・手順を確かめながら編む。 ・作業時間と、自分が決めた目標までの残りの長さを考え、編むスピードを考えながら編む。 ・力加減を意識して編む。 ・「プレゼントするもの」ということを忘れずに、仕上がりの良さを考えて編む。 ・集中力が切れてきたときに、適宜休憩を取りながら編む。	考 前時の出来上がりとは本時の出来上がり、見本などを比較し、仕上がりを考えようとしている。 考 見本の写真や図、編み方の資料と、自分が編んでいるものを比較し、修正しながら編もうとしている。	【研究内容 2-(1)】 必要に応じて、休憩時間を設け、個々の編む長さの目標を達成できるようにする。	○編んでいる途中で調べてもよいことを言葉がける。	○休憩時間を設けるときはタイマーをセットする。
			【研究内容 2-(2)】 ・自分の頑張りを感じられるように、編んだ物を iPad のカメラで記録する。 ・話すことが苦手な生徒も伝えられるように、本人が望む場合、先にロイロノートへ振り返りを入力し、電子黒板に映し出す。	○どうしたいのか意思表示できるように、いくつかの選択肢を用意する。	
見つめる	4 本時編んだ分を iPad のカメラで記録し、交流する。 ・カメラで記録し、ロイロノートに貼り付ける。 ・前時編んだ分と比較する。 ・本時編んだ分を電子黒板に映し出し、自分が頑張ったことや、気を付けたことを発表する。 ・お互いに気が付いた点を交流し、次に気を付けることなど、次回への目標をもつ。	考 自分が頑張ったことや、気を付けたことを話す。 考 仲間の意見を聞き、納得したり、次に生かそうとしていたりしている。 考 力加減や、1 段編んだ後のひと手間が仕上げの質に関わることに気が付くことができる。	○当日の状況により発表順を工夫する。 ○発表後、相手の振り返りに対して感想を言えるように時間を設ける。	○話すことに抵抗がある場合は先に振り返りを入力し、電子黒板に提示し、内容を代読する。	○うまく言葉にできないときは話しやすいように言葉をかける。 ○話すことができたときは拍手などで頑張ったことを価値付ける。
	5 “学びの見つめ”を行う。 ・発表したことや聞いたことを踏まえ、振り返る。 ・前時編んだものと比較し、頑張れたことや、次に気を付けたいことなどを入力する。	深 自分が頑張ったことや、今後の学習に生かしたいことを入力している。	【研究内容 2-(2)】 書くことが苦手な生徒も振り返りができるように、用紙への記述ではなく、ロイロノートへ入力する。		○自分が決めたことをできたかどうかの言葉がけをする。
	・前は強く引っ張りすぎて固くなってしまったけれど、今日は力を弱めて編むことができた。 ・1 段編むごとに指で押すといいということを聞いて、次からやってみようと思った。		評価規準 ・手順を確かめながら、自分で決めた目標の長さまで編むことができる。【知識・技能】【3-(3)・5-(1)】 ・自分の作業を振り返り、次に生かすことを考えることができる。【思考・判断・表現】【5-(5)・6-(2)】		

通級指導教室学習指導展開案

1. ドミノづくりをしよう（全3時間）

2. 本時のねらい

ドミノ倒しを制作する活動を通して、自分自身で創意工夫しながら制作したり、仲間と協力して作り上げたりする達成感を味わうことができる。【2-(3), 3-(4)】

3. 本時の展開（3／3）

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助 (A)	指導・援助 (B)	援助・援助 (C)				
つかむ	1 前時を振り返る。 - 自分たちが考えたドミノの構想を確認する。 - それぞれの位置やつなぎ方を確かめる。 2 本時の課題を確認する。 集中して自分の役割を果たし、仲間と一緒にドミノを完成させよう。 3 各自でドミノを制作する。 - 前時までに作った構想に合わせて、各自で自分の分担の部分制作する。 - 周りの子にも気遣いながら、静かに集中して作業をする。 - 困ったことがあったら、周りの子や先生に相談する。 4 各自で作ったドミノをつなげる。 - 他の子が作った作品を崩さないように気を付けて、それぞれの作品をつなぐ部分を、協力して作る。 5 完成したドミノを倒す。 - 完成したドミノを誰が代表で倒すかを決める。 - 仲間と一緒に成功を願いながら、見守る。 - 成功したら、みんなで達成したことを喜び合う。 - 途中で止まったり、上手に成功しなかったりした場合も、誰かを責めることなく、お互いの頑張りを認め合う。 6 振り返り - 制作の過程をタブレット等で振り返り、自分の頑張りを見つめることができる。 7 “学びの見つめ”を行う。 - 仲間と一緒に、意見を出し合い、ドミノを作り上げることができて楽しかった。 - 自分で工夫したり、集中して作業したりして制作することができた。	見 仲間と一緒に考えた構想の中で自分の役割を理解し、協力して作り上げようとする意欲をもって取り組んでいる。 考 自分が構想したドミノを時間内に完成させることができるように、時間配分を考えながら、集中して作業に取り組んでいる。 考 各自で作ったドミノが上手につながるように、配置やつなぎ方を考えて作業をしている。 見 ドミノが成功するかどうかに関わらず、お互いの頑張りを認め合い、励ましあっている。 深 自分の頑張り振り返るとともに、仲間の良さを認め、それを認め合っている。	○それぞれが自分の意見を出し、周りの意見も取り入れながら、構想を作り上げていくことができるように、話し合いを進める。 【研究内容1-(1)】 お互いに意見を交流し合ったり、良さを認め合ったりすることのできる単元の内容を工夫する。 【研究内容2-(1)】 作業の進み具合や、集中の仕方を考えて、個に応じて言葉をかける。 <table><tr><td>○自分の分担に集中するように言葉をかける。</td><td>○時間配分を確かめ、進み具合を確認させる。</td><td>○作業がなかなか進まない時は、一緒に作業をしながら進める。</td></tr></table> 【研究内容1-(2)】 仲間と意見を出し合いながら、お互いの作品を上手につなぐことができるように、協力して作業をする。 <table><tr><td>○仲間のことを考えた発言をしているかを見届ける。</td><td>○自分の意見が出せるように言葉をかける。</td><td>○仲間の意見を受け入れることができるかを見届ける。</td></tr></table> 【研究内容2-(2)】 タブレットに記録した政策の過程を見て、自分の頑張り振り返ったり、相手の良さを認め相手に伝えたりすることができるようにする。 評価規準 - 自分で考え、工夫しながらドミノを制作することができた。 【知識・技能】【2-(3)】 - 仲間と意見を出し合って、作り上げる楽しさを味わうことができた。 【思考・判断・表現】【3-(4)】	○自分の分担に集中するように言葉をかける。	○時間配分を確かめ、進み具合を確認させる。	○作業がなかなか進まない時は、一緒に作業をしながら進める。	○仲間のことを考えた発言をしているかを見届ける。	○自分の意見が出せるように言葉をかける。	○仲間の意見を受け入れることができるかを見届ける。
○自分の分担に集中するように言葉をかける。	○時間配分を確かめ、進み具合を確認させる。	○作業がなかなか進まない時は、一緒に作業をしながら進める。							
○仲間のことを考えた発言をしているかを見届ける。	○自分の意見が出せるように言葉をかける。	○仲間の意見を受け入れることができるかを見届ける。							
つなぐ									
見つめる									

A 3 組 特別支援科学習指導展開案

1. 単元名 進路について考えよう (全8時間)

2. 本時のねらい

面接の質問への回答を考えたり仲間と交流したりする活動を通して、自分の志望高校に対する思いに気づき、文章でまとめることができる。

【3-(3)・6-(5)】

3. 本時の展開 (4/8)

過程	学習内容	見方・考え方を働かせている姿	指導・援助	
			A	B
つかむ	1 本時の流れを確認する。 ・学校見学の時の記録やパンフレットなどを見ながらこれまでの学習を振り返る。 ・本時の大まかな流れを確認する。	見 自分の思いや感じたことを整理して、面接の時に話せるようにしたいと前向きに取り組もうとしている。	【研究内容 2-(1)】 調べたことや見学したことなどから自分がよいと感じたことを個別に確認していく。	
	2 本時の課題を確認する。 自分の考えていることを面接の場で伝えられるように整理しよう。		○最初に一緒に整理することでスムーズに始められるようにする。 ○関係のないことに興味を持ち、続けようとする時には、後で時間をとることを伝え、今やることを確認する。 ○見学の記録やホームページを用いて、志望校のよいところを自分で見つけられるようにする。 ○心配になったことはメモしておき、後で確認することを伝える。	
つなぐ	3 調べたことを整理する。 ・見学したことを振り返ったり、志望高校について調べたりしたことを確かめる。 ・項目ごとに整理する。	考 高校調べや高校見学で感じた思いや願いを項目ごとに整理している。 (学校の場所、学習内容、校舎・雰囲気、在校生・先生、部活動・行事、進路など)	【研究内容 2-(2)】 文章を書くことへの抵抗がある生徒もタブレットに入力し、校正して整理する。	
	4 質問に対する答えを実際に話す言葉でまとめる。 ・「はい、志望理由は□つあります。1つ目は、～」の形式でまとめる。 ・まとめ終えたら、実際に声に出して話してみる。	考 整理した内容から伝えたいことを選んで、面接にふさわしい言葉で話すことができるように文章を作成している。	○要点をまとめ、丁寧な言葉遣いで作成できたことを価値付ける。 ○仲間の志望理由のよさを見つけたことを価値付ける。 ○ゆっくり見ながらも相手に伝えようと意識して話せたことを価値付ける。	
見つめる	5 志望理由を交流する。 ・仲間の志望理由を相手を見ながら聞くことを意識する。 ・聞いた感想を伝える。	見 仲間の志望理由を聞き、自分と似ているところ、違うところを意識しながら聞いている。	【研究内容 1-(1)】 整理した自分の思いを相手意識をもち伝える。	
	6 振り返り ・志望理由をはっきりさせることができたかを振り返る。			
	7 “学びの見つめ”を行う。 ・何となくいいと思っていたけれど、高校の特徴を調べたら、自分に合っているところがいくつかあると分かった。これなら高校でがんばれそう。 ・仲間や先生が「いいね。」と言ってくれたのがうれしかった。面接の実際に話す練習もこれからがんばりたい。	深 自分の成果を振り返り、今後の進路への取り組みに自信をもつことができる。	評価規準 ・自分の思いを整理して明らかにし、質問に対する回答を考えることができる。 【知識・技能】【3-(3)】 ・場面にあった言葉で、自分の思いを伝える文章を作成し、相手を意識して伝えることができる。 【思考・判断・表現】【6-(5)】	